

基礎分野

授業科目 コミュニケーション (心理学を含む)	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 関根 剛
<p>授業の目標 教養としての心理学の基礎について学ぶ。さらに、将来臨床の現場で遭遇すると思われる様々な状況について考察・研修するための思考法の基礎を習得する。</p>				
<p>授業の概要 資料を用い心理学の基礎、ならびに、臨床の現場で遭遇すると思われる様々な状況について考察・研修する方法について説明する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス、コミュニケーション（心理学）とは</p> <p>第2週 知覚の働き 1) 知覚とは、知覚の統合性、錯覚</p> <p>第3週 2) 情動・欲求の効果</p> <p>第4週 欲求と動機づけ、欲求不満</p> <p>第5週 感情・情緒とは</p> <p>第6週 学習 1) 学習とその方法</p> <p>第7週 2) 学習結果の保存（記憶の過程）、思考の働き</p> <p>第8週 心の発達とコミュニケーション 1) 胎児期～児童期</p> <p>第9週 2) 青年期～中・高年期</p> <p>第10週 性格と知能とコミュニケーション 1) 性格について</p> <p>第11週 2) 知能について</p> <p>第12週 コミュニケーションにおける対人行動の心理①</p> <p>第13週 コミュニケーションにおける対人行動の心理②</p> <p>第14週 コミュニケーションにおける集団行動の心理①</p> <p>第15週 コミュニケーションにおける集団行動の心理②</p>				
テキスト				
教材・参考文献				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
備考				

授業科目 哲学	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 黒川 勲
授業の目標 教養としての哲学の基礎を理解する。				
授業の概要 資料を用いて哲学の基礎について説明する。				
<p>授業計画</p> <p>第1週 哲学の誕生 1) 人間の心の歴史、動物の行動と人間的行動</p> <p>第2週 2) 哲学の誕生 (呪術的・神話的思考から哲学へ)</p> <p>第3週 西洋哲学 1) 古代哲学 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス)</p> <p>第4週 2) 中世哲学 (古代から中世へ、中世から近代へ)</p> <p>第5週 3) 近代哲学 (デカルト、カント、ヘーゲル、ニーチェ)</p> <p>第6週 4) 近代哲学 (先駆者、思想状況、人間諸科学の方法論的改革)</p> <p>第7週 現代哲学の諸傾向とその問題点 1) 現象学、実在主義</p> <p>第8週 2) マルクス主義、プラグマティズム</p> <p>第9週 3) 構造主義</p> <p>第10週 4) 分析哲学</p> <p>第11週 人間における自然と分化</p> <p>第12週 心と身体</p> <p>第13週 哲学における死の問題</p> <p>第14週 人間の社会性</p> <p>第15週 人間の自覚としての哲学</p>				
テキスト				
教材・参考文献				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
備考				

授業科目 生物学	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 児嶋 彰一
<p>授業の目標 生命の科学について学び、医学を学んでいくために必要な人体の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。</p>				
<p>授業の概要 テキストを用いて人体の構造と機能に関する項目を説明する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 生命認識の歴史 第2週 細胞の成り立ち 第3週 代謝 第4週 消化と吸収 第5週 刺激の受容と反応 第6週 ホルモンによる生体機能の調節 第7週 免疫反応（侵入物に対する生態防衛） 第8週 生命の連続性と遺伝 第9週 遺伝の仕組みと調節 第10週 ヒトの遺伝 第11週 ヒトの発生 第12週 生物の発生・分化のしくみ 第13週 生命の寿命とバイオテクノロジー 第14週 ウィルス 第15週 地球環境と人間</p>				
<p>テキスト 医療・看護系のための生物学：田村隆明 著 裳華房</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 国 語	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 光法 真帆
授業の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として必要な漢字力、要約力、読解力を中心に、一般教養を身につける。 ・ 実践授業を実施し、資格の取得、就職に関わる国語表現能力を身につける。 				
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当作成のプリント演習と聴講によるノート作成を実施する。 				
授業計画 <p>第1週 国語の概要 接遇</p> <p>第2週 漢字力1 自身確認</p> <p>第3週 読解力1 自身確認</p> <p>第4週 要約力1 アピールポイント</p> <p>第5週 漢字力2 志望動機書</p> <p>第6週 読解力2 志望動機書</p> <p>第7週 要約力2 レポート</p> <p>第8週 復習(1～7)</p> <p>第9週 文章力1 手紙文・メール</p> <p>第10週 コミュニケーション能力1 履歴書</p> <p>第11週 文章力2 電話の対応</p> <p>第12週 コミュニケーション能力2 面接</p> <p>第13週 文章力3 小論文</p> <p>第14週 コミュニケーション能力3 小論文</p> <p>第15週 総復習</p>				
テキスト				
教材・参考文献 プリント教材				
成績評価の方法 <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
英語	1	前期・後期	講義・実習	藤原 和彦
<p>授業の目標</p> <p>医療の国際化、次世代の医療現状に対応する国際語として臨床的な英語を身につける。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>資料をもとに基礎英語、基本的な医学英語、英会話について指導する。 また、必要に応じ視聴覚教材（映画等）を使用し英語への関心を深める。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 Running under two flags 1) part 1</p> <p>第3週 2) part 2</p> <p>第4週 3) part 3</p> <p>第5週 4) part 4</p> <p>第6週 The Story of the Futon of Tottori 1) part 1</p> <p>第7週 2) part 2</p> <p>第8週 3) part 3</p> <p>第9週 4) part 4</p> <p>第10週 2～9までの反省・補足</p> <p>第11週 医学英語 1) 医療職・医療施設・医療用機器等の名称</p> <p>第12週 2) 身体各部の名称</p> <p>第13週 3) 疾病・治療にかかる名称・用語①</p> <p>第14週 4) 疾病・治療にかかる名称・用語②</p> <p>第15週 まとめ</p>				
テキスト				
教材・参考文献				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科基礎分野
科学的思考の基盤 人間と生活

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
保健体育	1	前期・後期	講義・実習	松田 史朗
<p>授業の目標</p> <p>各種の運動を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう指導するとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>自己の体力や生活に応じて各種の運動を行い、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス（体力測定）</p> <p>第2週 卓球</p> <p>第3週 バトミントン</p> <p>第4週 バレーボール</p> <p>第5週 バスケットボール</p> <p>第6週 卓球</p> <p>第7週 バトミントン</p> <p>第8週 バレーボール</p> <p>第9週 バスケットボール</p> <p>第10週 体ほぐしの運動（ストレッチ）</p> <p>第11週 卓球</p> <p>第12週 バトミントン</p> <p>第13週 バレーボール</p> <p>第14週 バスケットボール</p> <p>第15週 まとめ</p>				
テキスト				
教材・参考文献				
<p>成績評価の方法</p> <p>授業態度等を総合的に評価する。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科基礎分野
科学的思考の基盤 人間と生活

授業科目 保健体育	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 松田 史朗
<p>授業の目標</p> <p>各種の運動を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう指導するとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>自己の体力や生活に応じて各種の運動を行い、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 体力・健康チェック</p> <p>第2週 卓球</p> <p>第3週 バトミントン</p> <p>第4週 バレーボール</p> <p>第5週 バスケットボール</p> <p>第6週 卓球</p> <p>第7週 バトミントン</p> <p>第8週 バレーボール</p> <p>第9週 バスケットボール</p> <p>第10週 ストレッチ</p> <p>第11週 卓球</p> <p>第12週 バトミントン</p> <p>第13週 バレーボール</p> <p>第14週 バスケットボール</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>授業態度等を総合的に評価する。</p> <p>なお、レポートの提出も求め、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

專門基礎分野

専門基礎分野 人体の構造と機能

授業科目 解剖学 I	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀
<p>授業の目標</p> <p>鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>医学の基礎となる解剖学の中で最も基礎的な分野となる、骨についての基本的知識を理解することを目的とする。骨の構造、働きについて各部ごとに分類し解説する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 人体解剖学概説 意義と分類 器官系統 人体の区分</p> <p>第2週 運動系 骨格系 総論 役割、分類、構造・・・</p> <p>第3週 運動系 骨格系 総論 骨の連結（関節）</p> <p>第4週 運動系 骨格系 各論 脊柱の役割、頸椎、胸椎</p> <p>第5週 運動系 骨格系 各論 腰椎、仙骨、尾骨、連結</p> <p>第6週 運動系 骨格系 各論 胸骨、肋骨、連結</p> <p>第7週 運動系 骨格系 各論 上肢骨 肩甲骨、鎖骨、上腕骨</p> <p>第8週 運動系 骨格系 各論 上肢骨 橈骨、尺骨、手根骨</p> <p>第9週 運動系 骨格系 各論 上肢骨、上肢の関節 手の骨、上肢関節</p> <p>第10週 運動系 骨格系 各論 下肢骨 寛骨、骨盤、大腿骨</p> <p>第11週 運動系 骨格系 各論 下肢骨 膝蓋骨、脛骨、腓骨</p> <p>第12週 運動系 骨格系 各論 下肢骨 足根骨、・・・縦足弓、横足弓</p> <p>第13週 運動系 骨格系 各論 下肢の関節 股関節、膝関節、・・・指節間関節</p> <p>第14週 運動系 骨格系 各論 頭蓋 脳頭蓋、顔面頭蓋、頭蓋底</p> <p>第15週 運動系 骨格系 各論 頭蓋骨 頭蓋前面、泉門、顎関節</p>				
<p>テキスト</p> <p>解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学 I	1	前期・後期	講義・実習	杉若 晃紀
授業の目標 鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 骨格筋の系統解剖学及び各部位（6大関節、頸部など）の局所解剖学を学習する。				
授業計画 第1週 骨格筋 形態、作用、補助装置、神経 第2週 頭部の筋 表情筋、咀嚼筋 第3週 頸部の筋 広頸筋、胸鎖乳突筋・・・ 第4週 胸部の筋 大胸筋、小胸筋・・・ 第5週 筋系 胸部の筋 外肋間筋、内肋間筋・・・ 第6週 腹部の筋 腹直筋・・・ 第7週 筋系 腹部の筋 腰方形筋・・・ 第8週 背部の筋 上肢の筋 第9週 上肢の筋 上肢帯、前腕 第10週 上肢の筋 前腕、手 第11週 上肢の筋 前腕、手 第12週 下肢の筋 下肢帯、大腿 第13週 下肢の筋 大腿、下腿 第14週 下肢の筋 下腿、足 第15週 まとめ				
テキスト解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科

授業科目 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅱ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">島田 達生</p>
授業の目標 <p style="text-align: center;">鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。</p>				
授業の概要 <p>心臓の位置と構造や、全身の血液やリンパの通路となる脈管の走行や分布を把握して、それらの機能を理解するための基礎とする。また胎児の循環の機構を勉強する。</p>				
授業計画 第1週 人体解剖学概説 意義と分類 細胞および組織 発生 第2週 脈管系 総論 体循環、肺循環、血管の形成と構造 第3週 脈管系 心臓 位置、形態、構造 第4週 脈管系 心臓 刺激伝導系、心臓の脈管①・・・ 第5週 脈管系 心臓 刺激伝導系、心臓の脈管②・・・ 第6週 脈管系 血管系 肺循環、体循環、動脈系 大動脈、頭部、頸部 第7週 脈管系 血管系 上肢の動脈 鎖骨下、腋下、上腕、橈骨、尺骨 第8週 脈管系 血管系 胸大動脈、腹大動脈 腹腔、腸間膜①・・・ 第9週 脈管系 血管系 胸大動脈、腹大動脈 腹腔、腸間膜②・・・ 第10週 脈管系 血管系 骨盤、下肢の動脈 第11週 脈管系 血管系 静脈系：上大静脈 頭部、頸部、静脈洞、上肢、奇静脈①・・・ 第12週 脈管系 血管系 静脈系：上大静脈 頭部、頸部、静脈洞、上肢、奇静脈②・・・ 第13週 脈管系 血管系 静脈系：下大静脈 門脈、下肢・・・ 第14週 脈管系 血管系 胎児循環 第15週 脈管系 リンパ管系 脾臓				
テキスト 解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅱ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">島田 達生</p>
授業の目標 鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 体表解剖、触察解剖について学ぶ。				
授業計画 第1週 体表解剖 体表区分、骨格系、筋系① 第2週 体表解剖 体表区分、骨格系、筋系② 第3週 体表解剖 体幹, 3 体幹の局所解剖① 第4週 体表解剖 体幹, 3 体幹の局所解剖② 第5週 体表解剖 上肢, 3 上肢の局所解剖① 第6週 体表解剖 上肢, 3 上肢の局所解剖② 第7週 体表解剖 下肢, 3 下肢の局所解剖① 第8週 体表解剖 下肢, 3 下肢の局所解剖② 第9週 体表解剖 頭頸部, 2 頭頸部の体表および局所解剖① 第10週 体表解剖 頭頸部, 2 頭頸部の体表および局所解剖② 第11週 体表解剖 脈管系、神経系、目耳鼻口、外皮① 第12週 体表解剖 脈管系、神経系、目耳鼻口、外皮② 第13週 体表解剖 脈管系、神経系、目耳鼻口、外皮③ 第14週 触察解剖① 第15週 触察解剖②				
テキスト解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅲ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">亀井 歩</p>
授業の目標 鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 中枢神経系、末梢神経、伝導路、感覚器系（特殊感覚器系を含む）などについて学習する。				
授業計画 第1週 神経系 神経系の基礎、区分、神経組織・・・髄膜 第2週 神経系 脳 終脳、間脳、中脳 第3週 神経系 脳 橋、延髄、脳室 第4週 脊髄 区分、伝導路、錐体路、錐体外路 第5週 末梢神経 脳神経Ⅰ～Ⅵ 第6週 末梢神経 脳神経Ⅶ～Ⅻ 第7週 末梢神経 脊髄神経 分類、後枝 頸神経叢 第8週 末梢神経 腕神経叢 鎖骨上下部、正中神経、尺骨神経、橈骨神経 第9週 末梢神経 胸神経、腰神経叢 肋間神経、・・・大腿神経 第10週 末梢神経 仙骨神経叢 坐骨神経、総腓骨神経、脛骨神経 第11週 末梢神経 自律神経系、交感神経系、副交感神経系 第12週 感覚器 外皮 皮膚 第13週 感覚器 筋腱関節の感覚神経 第14週 感覚器 視覚器 第15週 感覚器 眼球、付属器・・・眼筋				
テキスト 解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅲ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">亀井 歩</p>
授業の目標 鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 内臓系の泌尿器、生殖器に所属する器官の正常な形態と機能、および内分泌系（総合）を学ぶ。				
授業計画 第1週 感覚器 聴覚器、平衡器 第2週 感覚器 外耳、中耳、内耳 第3週 感覚器 平衡覚路 第4週 感覚器 味覚器 第5週 感覚器 嗅覚器 第6週 内臓系 概論 第7週 内臓系 泌尿器 腎臓、泌尿器の働き、腎臓 第8週 内臓系 泌尿器 腎臓、尿管、膀胱、尿道 第9週 内臓系 生殖器 男性生殖器、精巣、前立腺 第10週 内臓系 生殖器 男性生殖器、尿道球腺、陰茎、陰囊 第11週 内臓系 生殖器 女性生殖器、卵巣、卵管 第12週 内臓系 生殖器 女性生殖器、子宮、膣、会陰 第13週 内分泌の働き、内分泌器：下垂体、松果体 第14週 甲状腺、上皮小体、副腎 第15週 膵臓、精巣、卵巣、胸腺				
テキスト 解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅳ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">杉若 晃紀</p>
授業の目標 鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 内臓系の消化器，呼吸器，泌尿器，生殖器に所属する器官の正常な形態と機能を学ぶ。				
授業計画 第1週 内臓系 概論 第2週 内臓系 呼吸器 呼吸器の働き 第3週 内臓系 呼吸器 鼻、鼻腔 第4週 内臓系 呼吸器 咽頭、喉頭 第5週 内臓系 呼吸器 気管、気管支 第6週 内臓系 呼吸器 肺 第7週 内臓系 呼吸器 胸膜、縦隔 第8週 内臓系 消化器 消化器の働き、種類、構造 第9週 内臓系 消化器 口、口腔腺、歯、舌 第10週 内臓系 消化器 咽頭、食道 第11週 内臓系 消化器 胃 第12週 内臓系 消化器 小腸 第13週 内臓系 消化器 大腸 第14週 内臓系 消化器 肝臓、胆嚢 第15週 内臓系 消化器 膵臓、腹膜				
テキスト 解剖学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">運動学</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">2</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">稲垣 敦</p>
授業の目標 人体の構造と機能のうち、特に関節運動、姿勢、歩行について取得する。				
授業の概要 人体の構造（骨格、神経）及び機能（運動調節）について。 歩行周期について。 姿勢の保持について。				
授業計画 第1週 関節と運動の力学① 第2週 関節と運動の力学③ 第3週 姿勢とその異常① 第4週 姿勢とその異常② 第5週 運動路と感覚路① 感覚路 第6週 運動路と感覚路② 錐体路 第7週 運動路と感覚路③ 錐体外路 第8週 反射と随意運動① 筋収縮 第9週 反射と随意運動② 原始反射と連合運動 第10週 反射と随意運動③ 伸張反射 第11週 反射と随意運動④ 屈曲反射 ほか 第12週 歩行① 歩行周期 第13週 歩行② 歩行と筋 第14週 歩行③ 正常歩行と異常歩行 第15週 まとめ				
テキスト 解剖学、リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">運動学</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">2</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">稲垣 敦</p>
授業の目標 人体の構造と機能のうち、特に関節運動、姿勢、歩行について取得する。				
授業の概要 人体の構造（骨格、神経）及び機能（運動調節）について。 歩行周期について。 姿勢の保持について。				
授業計画 第1週 脊柱・体幹の機能 第2週 肩甲帯・肩の機能 第3週 肘と前腕の機能 第4週 手と手指の機能 第5週 骨盤と股関節の機能 第6週 膝関節の機能 第7週 足の機能 第8週 顔面および頸部の筋 第9週 整形外科的見方① 肩関節 五十肩 など 第10週 整形外科的見方② 股関節 変形性股関節症 など 第11週 整形外科的見方③ 膝関節 変形性膝関節症 など 第12週 整形外科的見方④ スポーツ外傷と障害 第13週 まとめ・総復習① 第14週 まとめ・総復習② 第15週 まとめ・総復習③				
テキスト 解剖学、リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">生理学 I</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">高谷 恵子</p>
授業の目標 生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。				
授業の概要 生理学の基礎を学び、また複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（循環器系、血液・造血器系、呼吸器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。				
第1週 生理学の基礎 生理学とは 人体を構成する要素 ホメオスタシス 細胞の機能的構造 第2週 生理学の基礎 拡散、浸透、ろ過 受動運動と能動輸送 溶液の濃度を示す単位 第3週 体液の生理学 体液の区分と水のバランス 体液のイオン組成 体液の恒常性を維持する仕組み 第4週 血液の生理学 血液の役割 血液の組成 第5週 血液の生理学 免疫機能 血液型 血液の凝固 第6週 循環の生理学 心臓の機能 第7週 循環の生理学 血管系 リンパ管系 第8週 循環の生理学 循環の調節 第9週 循環の生理学 局所循環 第10週 循環の生理学 脳脊髄液循環 第11週 呼吸の生理学 呼吸器の機能的構造 換気 第12週 呼吸の生理学 ガス交換 血液中の酸素の運搬 血液による二酸化炭素の運搬 第13週 呼吸の生理学 呼吸を調節するしくみ 第14週 呼吸の生理学 呼吸の異常 特殊環境下の呼吸 第15週 まとめ				
テキスト 生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">生理学 I</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">1</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">高谷 恵子</p>
授業の目標 生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。				
授業の概要 複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（消化器系、泌尿器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。 また栄養について学び、食物が身体の中でどのようにエネルギーに変わるのか理解する。				
授業計画 第1週 消化と吸収 消化器系の働き 消化管の運動とその調節 第2週 消化と吸収 消化液の分泌機序 第3週 消化と吸収 消化 吸収 第4週 消化と吸収 消化管ホルモン 肝臓と胆道系 第5週 栄養と代謝 代謝 第6週 栄養と代謝 中間代謝 第7週 栄養と代謝 エネルギー代謝 第8週 体温とその調節 体温 体温の生理的変動 体内における熱の産生 第9週 体温とその調節 熱放散 第10週 体温とその調節 体温の調節 うつ熱と発熱 気候順化 第11週 尿の生成と排泄 腎の機能的構造地 第12週 尿の生成と排泄 糸球体ろ過 第13週 尿の生成と排泄 尿細管における再吸収 第14週 尿の生成と排泄 尿細管における分泌 第15週 まとめ				
テキスト 生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">生理学Ⅱ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">2</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">高谷 恵子</p>
授業の目標 生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。				
授業の概要 複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（神経系、内分泌系、生殖器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。				
授業計画 第1週 内分泌系の機能 内分泌腺 一般的性質 ホルモンの種類と作用 視床下部ホルモン 第2週 内分泌系の機能 下垂体、甲状腺・副腎皮質・副腎髄質のホルモン 第3週 内分泌系の機能 膵臓・精巣・卵巣のホルモン 第4週 生殖 性染色体とその異常 性分化 男子生殖器系の構成 精子形成 勃起と射精 第5週 生殖 女子生殖器系の構成 卵巣の周期 月経周期 妊娠と分娩 乳汁分泌 第6週 骨の生理学（構造 形成と成長 骨吸収） カルシウム代謝のホルモンによる調節 第7週 神経の基本的構造 神経細胞の形態 静止膜電位 活動電位 興奮の伝達 第8週 末梢神経系1（自律神経の働きと反射） 第9週 末梢神経系2（体性神経の働き） 第10週 中枢神経系1 第11週 中枢神経系2と反射 第12週 筋肉の機能 骨格筋の構造と仕組み 骨格筋の収縮の仕方 第13週 筋収縮のエネルギー 筋の発生 筋電図 平滑筋 心筋 第14週 感覚の生理学 感覚の一般的性質 体性感覚 内臓感覚 嗅覚と味覚 第15週 感覚の生理学 聴覚 視覚 前庭感覚				
テキスト 生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 病理学概論	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 樋口 安典
<p>授業の目標</p> <p>病理学に関する基礎的知識を身につける。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>(1) 病理学の基礎</p> <p>(2) 病因</p> <p>(3) 循環障害</p> <p>(4) 退行性病変</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 病理学の基礎</p> <p>第2週 病因、外因</p> <p>第3週 内因</p> <p>第4週 化学的要因</p> <p>第5週 充血・うっ血</p> <p>第6週 出血</p> <p>第7週 血栓、塞栓、梗塞</p> <p>第8週 水腫、浮腫、脱水症</p> <p>第9週 ショック</p> <p>第10週 萎縮</p> <p>第11週 変性</p> <p>第12週 壊死・死</p> <p>第13週 肥大、増殖</p> <p>第14週 再生</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト</p> <p>病理学概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 病理学概論	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 樋口 安典
<p>授業の目標</p> <p>病理学に関する基礎的知識を身につける。</p>				
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 退行性病変 (2) 進行性病変 (3) 炎症 (4) 腫瘍 (5) 免疫異常とアレルギー 				
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週 化生 第2週 移植 第3週 創傷治癒、異物の処理 第4週 炎症の一般 第5週 炎症の分類 第6週 炎症の分類 第7週 腫瘍の一般 第8週 腫瘍の分類 第9週 良性腫瘍 第10週 悪性腫瘍 第11週 体液性免疫と細胞性免疫 第12週 アレルギー 第13週 自己免疫異常 第14週 先天異常 第15週 まとめ 				
<p>テキスト</p> <p>病理学概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 病理学概論	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 樋口 安典
<p>授業の目標</p> <p>病理学に関する基礎的知識を身につける。</p>				
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 退行性病変 (2) 進行性病変 (3) 炎症 (4) 腫瘍 (5) 免疫異常とアレルギー 				
<p>授業計画</p> <p>第1週 化生</p> <p>第2週 移植</p> <p>第3週 創傷治癒、異物の処理</p> <p>第4週 炎症の一般</p> <p>第5週 炎症の分類</p> <p>第6週 炎症の分類</p> <p>第7週 腫瘍の一般</p> <p>第8週 腫瘍の分類</p> <p>第9週 良性腫瘍</p> <p>第10週 悪性腫瘍</p> <p>第11週 体液性免疫と細胞性免疫</p> <p>第12週 アレルギー</p> <p>第13週 自己免疫異常</p> <p>第14週 先天異常</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト</p> <p>病理学概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 臨床医学総論	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 平山 慶一
<p>授業の目標 鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p>				
<p>授業の概要 診察の概要 診察の方法 臨床検査法 治療学 臨床心理</p>				
<p>授業計画 第1週 診察の概要 第2週 診察の方法 第3週 問診、身体の診察 第4週 全身及び局所の診察 第5週 その他の診察 第6週 検査法とその意義 第7週 理学的検査 第8週 運動機能検査 第9週 内視鏡検査 第10週 主要基準値 第11週 主な症状の診察 頭痛 第12週 主な症状の診察 頭痛 第13週 主な症状の診察 発熱 第14週 主な症状の診察 発熱 第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献 ビジュアルノート (メディックメディア社)</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 臨床医学総論	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 平山 慶一
<p>授業の目標 鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p>				
<p>授業の概要 診察の概要 診察の方法 臨床検査法 治療学 臨床心理</p>				
<p>授業計画 第1週 主な症状の診察 めまい 第2週 主な症状の診察 耳鳴、難聴 第3週 主な症状の診察 肩こり 第4週 主な症状の診察 動悸 第5週 主な症状の診察 息切れ、胸痛 第6週 主な症状の診察 腹痛 第7週 主な症状の診察 悪心嘔吐 第8週 主な症状の診察 便秘と下痢 第9週 主な症状の診察 のぼせと冷え 第10週 主な症状の診察 不眠、疲労倦怠 第11週 主な症状の診察 肥満とやせ 第12週 主な症状の診察 咳と痰 第13週 主な症状の診察 むくみ 第14週 主な症状の診察 多尿と頻尿 第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献 ビジュアルノート (メディックメディア社)</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学各論 I	2	前期・後期	講義・実習	吉岡 秀克
授業の目標 広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。				
授業の概要 感染症・消化器・肝胆膵疾患を行う。 概要・症状・治療等について講義を行う。				
授業計画 第1週 感染症① 第2週 感染症② 第3週 消化器疾患概論 第4週 消化器疾患（歯周病・顎関節症・食道癌） 第5週 消化器疾患（食道炎・胃炎・胃十二指腸潰瘍） 第6週 消化器疾患（胃癌・ダンピング症候群・急性腸炎） 第7週 消化器疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病・過敏性腸症候群） 第8週 消化器疾患（虫垂炎・大腸癌） 第9週 消化器疾患（腸閉塞） 第10週 消化器疾患（急性腹膜炎・結核性腹膜炎・癌性腹膜炎） 第11週 肝胆膵疾患 概論 第12週 肝胆膵疾患（急性肝炎）（慢性肝炎） 第13週 肝胆膵疾患（肝硬変）（肝癌） 第14週 肝胆膵疾患（薬物性肝障害・アルコール性肝障害） 第15週 肝胆膵疾患（胆石・胆嚢癌）				
テキスト 臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 内科学 I・II 医学書院ハリソン内科学第 2 版 1・2 メディカルサイエンスインターナショナル				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学各論 I	2	前期・後期	講義・実習	吉岡 秀克
授業の目標 広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。				
授業の概要 肝胆膵・呼吸器・整形外科疾患を行う。 概要・症状・治療等について講義を行う。				
授業計画 第1週 肝胆膵疾患（急性膵炎・慢性膵炎・膵癌） 第2週 呼吸器疾患概論 第3週 呼吸器疾患（上気道炎・急性気管支炎） 第4週 呼吸器疾患（肺気腫・慢性気管支炎） 第5週 呼吸器疾患（特発性肺線維症・気胸） 第6週 呼吸器疾患（肺炎・肺結核） 第7週 呼吸器疾患（気管支拡張症） 第8週 呼吸器疾患（気管支喘息） 第9週 呼吸器疾患（肺癌） 第10週 整形外科疾患概論 第11週 整形外科疾患（関節炎・五十肩・変形性関節症・骨粗鬆症） 第12週 整形外科疾患（骨腫瘍・腱鞘炎・先天性股関節脱臼・斜頸・側彎症） 第13週 整形外科疾患（椎間板ヘルニア・脊椎分離症・変形性脊椎症） 第14週 整形外科疾患（脊柱管狭窄症・腰痛症・骨折） 第15週 整形外科疾患 （スポーツ外傷・胸郭出口症候群・頸肩腕症候群・ガングリオン・手根管症候群）				
テキスト 臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 内科学 I・II 医学書院ハリソン内科学第2版 1・2 メディカルサイエンスインターナショナル				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学各論Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	市橋 香澄
授業の目標 広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。				
授業の概要 呼吸器疾患・腎尿器疾患を行う。 概要・症状・治療等について講義を行う。				
授業計画 第1週 呼吸器疾患（上気道炎・急性気管支炎） 第2週 呼吸器疾患（肺炎・肺結核） 第3週 呼吸器疾患（肺気腫・慢性気管支炎） 第4週 呼吸器疾患（気管支喘息） 第5週 呼吸器疾患（特発性肺線維症・気胸） 第6週 呼吸器疾患（肺癌） 第7週 呼吸器疾患（気管支拡張症） 第8週 腎尿器疾患（急性糸球体腎炎） 第9週 腎尿器疾患（慢性糸球体腎炎） 第10週 腎尿器疾患（ネフローゼ症候群） 第11週 腎尿器疾患（急性腎不全・慢性腎不全） 第12週 腎尿器疾患（腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎） 第13週 腎尿器疾患（腎細胞癌・膀胱癌） 第14週 腎尿器疾患（腎尿管結石症） 第15週 腎尿器疾患（前立腺肥大・前立腺癌）				
テキスト 臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 内科学Ⅰ・Ⅱ 医学書院ハリソン内科学第2版 1・2 メディカルサイエンスインターナショナル				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	3	前期・後期	講義・実習	三ヶ尻 彩花
授業の目標 施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識について習得させ、これを施術に応用する能力と態度を養う。				
授業の概要 リハビリテーションの考え方、評価法、各種療法について学ぶ。				
授業計画 第1週 リハビリテーションの概要 第2週 医学的リハビリテーションの概要 第3週 障害の評価① 心身・身体機能、活動、参加 第4週 障害の評価② 合併症、運動麻痺、発達、高次機能、心理 第5週 理学療法① 運動療法の意義 第6週 理学療法② 基本的運動療法 第7週 理学療法③ 特殊な技術を要する運動療法 第8週 理学療法④ 応用的な運動療法 第9週 理学療法⑤ 運動療法機器、物理療法 第10週 作業療法 第11週 言語聴覚療法 第12週 装具療法と義肢 第13週 リハビリテーション看護 第14週 ソーシャルワーク、心理的アプローチ 第15週 まとめ				
テキスト リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 標準リハビリテーション医学 津山直一監修 医学書院				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	3	前期・後期	講義・実習	三ヶ尻 彩花
授業の目標 施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識について習得させ、これを施術に応用する能力と態度を養う。				
授業の概要 各疾患の病態（評価）及びリハビリテーションの方法を学ぶ。				
授業計画 第1週 脳卒中のリハビリテーション① 概要・病態 第2週 脳卒中のリハビリテーション② 理学療法 第3週 脊髄損傷のリハビリテーション① 概要・病態 第4週 脊髄損傷のリハビリテーション② 理学療法 第5週 切断のリハビリテーション 第6週 小児麻痺のリハビリテーション 第7週 肺疾患のリハビリテーション 第8週 心疾患のリハビリテーション 第9週 整形外科疾患のリハビリテーション 五十肩・腰痛 第10週 整形外科疾患のリハビリテーション 変形性関節症 第11週 整形外科疾患のリハビリテーション 変形性関節症・大腿骨頸部骨折 第12週 整形外科疾患のリハビリテーション 末梢神経障害 第13週 整形外科疾患のリハビリテーション 関節リウマチ 第14週 整形外科疾患のリハビリテーション その他（スポーツ障害、膠原病など） 第15週 まとめ				
テキスト リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 標準リハビリテーション医学 津山直一監修 医学書院				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
衛生・公衆衛生学	2	前期・後期	講義・実習	市橋 香澄
授業の目標 人間の生活と密接な関係をもつ公衆衛生学を学んで、優れた人間性豊かな鍼灸師を育成する。				
授業の概要 衛生学の概要及び生活、産業などの各分野における健康のとらえ方について学習する。				
授業計画 第1週 衛生学・公衆衛生学の意義① 第2章 健康① 健康の概要 第3週 健康② 健康管理 第4週 ライフスタイルと健康① 食品と栄養 第5週 ライフスタイルと健康② 運動と健康 第6週 環境と健康① 環境とは 第7週 環境と健康② 日常生活環境① 第8週 環境と健康③ 日常生活環境② 第9週 環境と健康④ 環境問題 第10週 産業保健① 労働環境と健康 第11週 産業保健② 業務上疾病とその対策 第12週 精神保健① 精神の健康 第13週 精神保健② 精神障害の現状と分類 第14週 母子保健① 母体の健康 第15週 母子保健② 母体保護と子育て支援				
テキスト 衛生学・公衆衛生学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
衛生・公衆衛生学	3	前期・後期	講義・実習	市橋 香澄
授業の目標 人間の生活と密接な関係をもつ公衆衛生学を学んで、優れた人間性豊かな鍼灸師を育成する。				
授業の概要 成人・高齢者保健、感染症及び消毒法、疫学統計について学習する。				
授業計画 第1週 成人・高齢者保健① 加齢と老化 第2週 成人・高齢者保健② 生活習慣病の特徴と対策 第3週 成人・高齢者保健③ 老人保健福祉対策 第4週 成人・高齢者保健④ 介護保険 第5週 感染症とその対策① 感染症の意義と種類 第6週 感染症とその対策② 発生要因・感染症予防の原則 第7週 感染症とその対策③ 免疫 第8週 消毒法① 消毒法一般 第9週 消毒法② 消毒法の種類① 第10週 消毒法③ 消毒法の種類② 第11週 消毒法④ 消毒の実際 第12週 消毒法⑤ 医療廃棄物 第13週 疫学 第14週 保健統計 第15週 まとめ				
テキスト 衛生学・公衆衛生学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
 専門基礎分野 保健医療福祉とはり師及びきゅう師の理念

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
医療概論	1	前期・後期	講義・実習	木場 由衣登
<p>授業の目標</p> <p>はり師・きゅう師を取り巻く環境（医療制度及び社会福祉制度）及び医療倫理について学習し、はり師・きゅう師として必要な知識及び態度を育てる</p>				
<p>授業の概要</p> <p>医学史全般現代医療及び社会福祉制度</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 近代医学の特徴と代替医療</p> <p>第2週 世界の古代医学（古代バビロニア・エジプト・アラビア・中国の医学）</p> <p>第3週 西洋医学①</p> <p>第4週 西洋医学②</p> <p>第5週 西洋医学③</p> <p>第6週 現代の医学と医療①</p> <p>第7週 現代の医学と医療② 近代医学の特徴</p> <p>第8週 現代の医学と医療③ 医療と社会</p> <p>第9週 現代の医学と医療④ 医療従事者</p> <p>第10週 現代の医学と医療⑤ 医療・福祉施設、医療経済</p> <p>第11週 社会福祉制度① 医療保険の定義、医療保険の仕組み</p> <p>第12週 社会福祉制度② 公費負担制度、介護サービス行政</p> <p>第13週 医療倫理① 医療の倫理</p> <p>第14週 医療倫理② 医療倫理教育</p> <p>第15週 医療倫理③ 施術者としての倫理</p>				
<p>テキスト</p> <p>医療概論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
社会保障制度及び職業倫理	3	前期・後期	講義・実習	杉若 晃紀 三ヶ尻 彩花
授業の目標 免許取得後、開業する者に対する社会保障制度及び職業倫理について理解させる。 療養費の適正な支給申請ができるよう教授し、シミュレーションを行い修得させる。 災害時の被災者支援について知識と臨床能力を育てる。				
授業の概要 社会保障制度、職業倫理、療養費と支給申請、災害支援対策について学習する。				
授業計画 第1週 保険の種類 第2週 社会保障制度1 社会福祉・公的扶助 第3週 社会保障制度2 医療保険・労働保険 第4週 社会保障制度3 まとめ 第5週 職業倫理の概要 第6週 職業倫理1 守秘義務 第7週 職業倫理2 医療過誤 第8週 職業倫理3 守秘義務・医療過誤まとめ 第9週 職業倫理4 治療中の接し方、セクシャルハラスメントについて 第10週 職業倫理5 まとめ 第11週 療養費の取扱い1 療養費の概要及び療養費支給申請の基礎 第12週 療養費の取扱い2 療養費支給申請の実務 第13週 災害支援対策1 被災地、避難場所のボランティア支援の概要 第14週 災害支援対策2 被災者の健康を守るための基本的知識 第15週 災害支援対策3 鍼灸施術ボランティア活動の基本的臨床能力				
テキスト				
教材・参考文献 社会保障制度 中央法規出版療養費の支給基準 社会保険研究所 鍼・灸・マッサージ治療のための健康保険取扱いテキスト 保険鍼灸マッサージ協会鍼灸施術ボランティアマニュアル 日本鍼灸師会				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀 (90点以上)、優 (80点以上)、良 (70点以上)、可 (60点以上)、不可 (60点未満) とする				
備考				

大分医学技術専門学校 鍼灸師科
 専門基礎分野 保健医療福祉とはり師及びきゅう師の理念

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
関係法規	3	前期・後期	講義・実習	木場 由衣登
<p>授業の目標</p> <p>あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律及び関係法規を学ぶことで、はり師、きゅう師として必要な知識と態度を養う</p>				
<p>授業の概要</p> <p>あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の全文及び各種関係法規の概要について習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 法とは何か</p> <p>第2週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律① 沿革</p> <p>第3週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律② 免許と試験</p> <p>第4週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律③ 業務</p> <p>第5週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律④ 学校・養成施設</p> <p>第6週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律⑤ 指定試験機関</p> <p>第7週 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律⑥ 罰則</p> <p>第8週 関係法規① 医療法</p> <p>第9週 関係法規② 医師法、保健師助産師看護師法</p> <p>第10週 関係法規③ その他の医療従事者に関する法律</p> <p>第11週 関係法規④ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律</p> <p>第12週 関係法規⑤ 衛生関係法規</p> <p>第13週 関係法規⑥ 社会福祉関係法規</p> <p>第14週 関係法規⑦ 社会保険関係法規</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト</p> <p>関係法規 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

専門分野

授業科目 東洋医学概論 I	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 木場 由衣登
授業の目標 教科書『東洋医学概論』の全体内容を解りやすく説明し、学生の理解を進めるとともに、中国の古典を原点とする難解な単語・語句に対する解説を加えながら授業を行う。				
授業の概要 テキストを用い東洋医学の全体像と陰陽五行から初歩的な知識を理解させる。				
授業計画 第1週 I. 東洋医学の起源と発展：東洋医学と西洋医学の比較 第2週 1. 東洋医学の起源と発展（1）：東洋医学史概説 第3週 2. 東洋医学の起源と発展（2）：現代の東洋医学概説 第4週 3. 陰陽五行論（1）：陰陽論の成立と基本概念 第5週 4. 陰陽五行論（2）：五行論の基礎理論 第6週 II. 東洋医学の身体観：人体の構成と基本要素 第7週 1. 気血津液の生成（1）：気の生成と病理 第8週 2. 気血津液の生成（2）：血・津液の生成と病理 第9週 3. 五臓六腑（1）：蔵象概説・肝の生理と関連機構 第10週 4. 五臓六腑（2）：心の生理と関連機構・脾の生理と関連機構 第11週 5. 五臓六腑（3）：肺の生理と関連機構・腎の生理と関連機構 第12週 6. 五臓六腑（4）：六腑の生理と関連機構① 第13週 7. 五臓六腑（5）：六腑の生理と関連機構②・奇恒の腑 第14週 8. 五臓六腑（6）：臓腑間の生理と関連する病証 第15週 9. 五臓六腑（7）：蔵象まとめ				
テキスト 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 針灸学（基礎編） 東洋学術出版社中国医学思想史 東京大学出版会				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 東洋医学概論 I	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 木場 由衣登
授業の目標 教科書『東洋医学概論』の内容より、東洋医学における病理病証を理解し、身体各症状について、五行・五臓を駆使した組み立てができるようする。				
授業の概要 テキストを用い三因論による病理と五臓を主体とした病理病証について説明し、理解させる。				
授業計画 第1週 III. 東洋医学の疾病観：病因論概説（三因論） 第2週 1. 外因（1）：風・寒 第3週 2. 外因（2）：暑・湿 第4週 3. 外因（3）：燥・火 第5週 4. 内因（1）：怒・喜 第6週 5. 内因（2）：思・悲・憂 第7週 6. 内因（3）：恐・驚 第8週 7. 不内外因：飲食・労倦 第9週 8. 不内外因：房事・外傷 第10週 9. 病理と病証（1）：八綱 第11週 10. 病理と病証（2）：臓腑の病証①：肝 第12週 11. 病理と病証（3）：臓腑の病証②：心 第13週 12. 病理と病証（4）：臓腑の病証③：脾 第14週 13. 病理と病証（5）：臓腑の病証④：肺 第15週 14. 病理と病証（6）：臓腑の病証⑤：腎・病理病証のまとめ				
テキスト 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 中医学の基礎 東洋学術出版社 針灸学（基礎編） 東洋学術出版社				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 東洋医学概論Ⅱ	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 木場 由衣登
<p>授業の目標 教科書『東洋医学概論』のベースとし、四診による東洋医学の診断学を理論から理解させ、実践ができるように導く。</p>				
<p>授業の概要 テキストを用いて四診について伝統的な論理を解説し、臨床応用についても学習する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 診断論：四診とその臨床応用についての概説</p> <p>第2週 望診（1）：顔面診</p> <p>第3週 望診（2）：舌診①</p> <p>第4週 望診（3）：舌診②</p> <p>第5週 望診（4）：虎口三関の脈</p> <p>第6週 聞診（1）：臭いと声</p> <p>第7週 問診（1）：飲食</p> <p>第8週 問診（2）：大小便</p> <p>第9週 問診（3）：月経・痛み</p> <p>第10週 切診（1）：腹診</p> <p>第11週 切診（2）：脈診①：概説・三部九候診</p> <p>第12週 切診（3）：脈診②：六部定位</p> <p>第13週 切診（4）：脈診③：二十四脈状</p> <p>第14週 切診（5）：脈診④：実践論</p> <p>第15週 証のたてかた</p>				
<p>テキスト 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 中医学の基礎 東洋学術出版社 針灸学（基礎編） 東洋学術出版社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 経絡経穴概論 I	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀
<p>授業の目標 はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。</p>				
<p>授業の概要 経絡 経穴の概要 経穴 任脈・督脈の流注、経穴名と部位十二正経の流注、経穴名と部位（手の太陰肺経）</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 東洋医学と西洋医学の概要 臓腑の概要 臓腑と経絡の関係 経絡の意義と概要</p> <p>第2週 経絡4系統の区分について 陰陽説の概念 十四経の流注について</p> <p>第3週 経穴の意義と概要 骨度法、同身寸法の概念と解説 経絡と経穴の関わり</p> <p>第4週 作用と禁鍼穴、禁灸穴について 要穴の意義と概要</p> <p>第5週 五兪穴（五行穴）と五行の概念</p> <p>第6週 五要穴 八会穴</p> <p>第7週 四総穴 八総穴 下合穴</p> <p>第8週 督脈 流注、生理作用、病証、関係臓腑</p> <p>第9週 督脈 経穴（長強～大椎）</p> <p>第10週 督脈 経穴（瘻門～鬲交）</p> <p>第11週 任脈 流注、生理作用、病証、関係臓腑 経穴（会陰～中極）</p> <p>第12週 任脈 経穴（関元～鳩尾）</p> <p>第13週 任脈 経穴（中庭～承漿）</p> <p>第14週 手の太陰肺経 流注、病証、関係臓腑、通過器官 是動病と所生病の概念</p> <p>第15週 手の太陰肺経 経穴（中府～少商）</p>				
<p>テキスト 経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学 東洋学術出版社 危険経穴の断面解剖アトラス 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				

授業科目 経絡経穴概論 I	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀
<p>授業の目標 はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。</p>				
<p>授業の概要 経穴 十二正経の流注、経穴名と部位（手の陽明大腸経から足の少陰腎経まで）</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 手の陽明大腸経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（商陽～手五里）</p> <p>第2週 手の陽明大腸経 経穴（臂臑～迎香） 足の陽明胃経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（承泣～欠盆）</p> <p>第3週 足の陽明胃経 経穴（気戸～気衝）</p> <p>第4週 足の太陰脾経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（隠白～商丘）</p> <p>第5週 足の太陰脾経 経穴（三陰交～大包） 脾の大絡、十五絡について</p> <p>第6週 手の少陰心経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（極泉～少衝）</p> <p>第7週 手の太陽小腸経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（少沢～小海）</p> <p>第8週 手の太陽小腸経 経穴（肩貞～聴宮）</p> <p>第9週 足の太陽膀胱経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（睛明～天柱）</p> <p>第10週 足の太陽膀胱経 経穴（大杼～大腸俞）</p> <p>第11週 足の太陽膀胱経 経穴（小腸俞～委中）</p> <p>第12週 足の太陽膀胱経 経穴（附分～秩辺）</p> <p>第13週 足の太陽膀胱経 経穴（合陽～至陰）</p> <p>第14週 足の少陰腎経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（湧泉～陰谷）</p> <p>第15週 足の少陰腎経 経穴（横骨～俞府）</p>				
<p>テキスト 経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学 東洋学術出版社 危険経穴の断面解剖アトラス 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 経絡経穴概論Ⅱ	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀
<p>授業の目標 はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。</p>				
<p>授業の概要 経穴 十二正経の流注、経穴名と部位（手の陽明心包経から足の少陰腎経まで）</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 手の厥陰心包経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（天池～中衝）</p> <p>第2週 手の少陽三焦経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（関衝～臂臑）</p> <p>第3週 手の少陽三焦経 経穴（天牖～糸竹空）</p> <p>第4週 足の少陽胆経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（瞳子膠～完骨）</p> <p>第5週 足の少陽胆経 経穴（淵液～膝陽関）</p> <p>第6週 足の少陽胆経 経穴（陽陵泉～足竅陰）</p> <p>第7週 足の厥陰肝経 流注、病証、連係臓腑、通過器官 経穴（大敦～曲泉）</p> <p>第8週 足の厥陰肝経 経穴（陰包～期門）</p> <p>第9週 奇経の意義と概要</p> <p>第10週 奇穴（四神聡～翳明）</p> <p>第11週 奇穴（子宮～四華）</p> <p>第12週 奇穴（肩内陵～十宣）</p> <p>第13週 奇穴（鶴頂～失眠）</p> <p>第14週 奇穴（六つ灸～脚気八処）</p> <p>第15週 現代医学的意義と研究 関連する反応点、反応帯と施術</p>				
<p>テキスト 経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学 東洋学術出版社 危険経穴の断面解剖アトラス 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 はりきゅう理論 I</p>	<p>対象学年 1</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 平山 慶一</p>
<p>授業の目標 はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。</p>				
<p>授業の概要 はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 はり術の定義と沿革、きゅう術の定義と沿革、鍼灸治療の特徴</p> <p>第2週 毫鍼の各部の名称と特徴、鍼の長さとおさ、鍼尖の形と種類と特徴、鍼・鍼管の形状</p> <p>第3週 古代九鍼</p> <p>第4週 刺鍼の方式</p> <p>第5週 刺鍼の術式①</p> <p>第6週 刺鍼の術式②</p> <p>第7週 特殊鍼法① 小児鍼・皮内鍼・円皮鍼</p> <p>第8週 特殊鍼法② 低周波鍼通電療法・灸頭鍼</p> <p>第9章 特殊鍼法③ レーザー鍼 その他</p> <p>第10週 灸の材料① モグサ、モグサの製法と線香</p> <p>第11週 有痕灸、無痕灸、特殊灸法 薬物灸など</p> <p>第12週 刺激量、感受性、鍼灸療法の適応症、鍼灸療法の禁忌</p> <p>第13週 リスク管理の基本</p> <p>第14週 鍼療法の過誤と副作用①</p> <p>第15週 鍼療法の過誤と副作用②</p>				
<p>テキスト はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 はりきゅう理論 I	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 平山 慶一
授業の目標 はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。				
授業の概要 はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。				
授業計画 第1週 きゅう療法の過誤と副作用① 第2週 きゅう療法の過誤と副作用② 第3週 感染症対策① 第4週 感染症対策② 第5週 鍼灸の刺激と反応① 痛みの受容と伝導① 第6週 鍼灸の刺激と反応② 痛みの受容と伝導② 第7週 鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）① 温度感覚の受容と伝導 第8週 鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）② 触圧感覚の受容と伝導 第9週 鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）③ 筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導 第10週 総復習① 鍼の基礎 鍼灸刺激と反射 第11週 総復習① 鍼の基礎 鍼鎮痛① 第12週 総復習① 鍼の基礎 鍼鎮痛② 第13週 総復習② 灸の基礎 鍼鎮痛③ 内因性モルヒネ、下行性疼痛抑制系 第14週 総復習② 灸の基礎 鍼鎮痛④ 第15週 総復習② 灸の基礎 鍼鎮痛⑤ ゲートコントロール説				
テキスト はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 はりきゅう理論Ⅱ	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 平山 慶一
<p>授業の目標 はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。</p>				
<p>授業の概要 はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 総復習④ 治効理論 自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響①</p> <p>第2週 総復習④ 治効理論 自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響②</p> <p>第3週 総復習④ 治効理論 自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響③ ポリモーダル受容器</p> <p>第4週 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①</p> <p>第5週 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②</p> <p>第6週 鍼灸刺激と免疫系</p> <p>第7週 鍼灸刺激と内分泌系</p> <p>第8週 鍼灸刺激と神経系</p> <p>第9週 サイバネティックスの学説</p> <p>第10週 フィードバック機構</p> <p>第11週 ホメオスタシス</p> <p>第12週 汎適応症候群の学説</p> <p>第13週 過剰刺激症候群の学説</p> <p>第14週 圧発汗反射の学説</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 東洋医学臨床論 I	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 神園 恭一
<p>授業の目標 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。</p>				
<p>授業の概要 総論症候別治療</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 治療原則・治療計画・東洋医学的処方・現代医学的処方</p> <p>第2週 頸肩腕痛</p> <p>第3週 腰下肢痛</p> <p>第4週 関節痛</p> <p>第5週 肩こり</p> <p>第6週 運動麻痺</p> <p>第7週 頭痛</p> <p>第8週 顔面痛</p> <p>第9週 顔面痛</p> <p>第10週 不眠</p> <p>第11週 便秘と下痢</p> <p>第12週 腹痛</p> <p>第13週 悪心嘔吐食欲不振</p> <p>第14週 整形的疾患総まとめ</p> <p>第15週 内科的疾患総まとめ</p>				
<p>テキスト 東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 東洋医学臨床論 I	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 神園 恭一
<p>授業の目標 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。</p>				
<p>授業の概要 症候別治療</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 高血圧と低血圧</p> <p>第2週 胸痛</p> <p>第3週 咳と痰</p> <p>第4週 めまい</p> <p>第5週 めまい</p> <p>第6週 めまい</p> <p>第7週 顔面麻痺</p> <p>第8週 顔面麻痺</p> <p>第9週 顔面麻痺</p> <p>第10週 月経異常</p> <p>第11週 月経異常</p> <p>第12週 排尿異常</p> <p>第13週 糖尿病</p> <p>第14週 肥満</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト 東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 東洋医学臨床論Ⅱ	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 神園 恭一
授業の目標 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。				
授業の概要 症候別治療				
授業計画 第1週 肥満 第2週 高脂血症 第3週 高血圧 第4週 痛風 第5週 生活習慣病に対する鍼灸まとめ 第6週 皮膚科疾患に関する鍼灸 第7週 骨粗鬆症 第8週 骨粗鬆症 第9週 骨粗鬆症 第10週 パーキンソン病 第11週 パーキンソン病 第12週 パーキンソン病 第13週 認知症 第14週 認知症 第15週 まとめ				
テキスト 東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 <p style="text-align: center;">東洋医学臨床論Ⅱ</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">3</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">神園 恭一</p>
授業の目標 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。				
授業の概要 症候別治療				
授業計画 第1週 肩のスポーツ障害 第2週 肩のスポーツ障害 第3週 肩のスポーツ障害 第4週 肘のスポーツ障害 第5週 肘のスポーツ障害 第6週 腰部のスポーツ障害 第7週 腰部のスポーツ障害 第8週 膝や大腿部のスポーツ障害 第9週 膝や大腿部のスポーツ障害 第10週 膝や大腿部のスポーツ障害 第11週 下腿部及び足関節のスポーツ障害 第12週 下腿部及び足関節のスポーツ障害 第13週 症例検討 第14週 症例検討 第15週 まとめ				
テキスト 東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

<p>授業科目 スポーツ鍼灸学</p>	<p>対象学年 2</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀</p>
<p>授業の目標 部位別に発生するスポーツと障害の関係を理解する。 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して鍼灸施術ができるよう指導する。</p>				
<p>授業の概要 症候別治療</p>				
<p>授業計画 第1週 概論① 第2週 概論② 第3週 頸部のスポーツ障害 第4週 頸部のスポーツ障害と鍼灸治療 第5週 肩のスポーツ障害 第6週 肩のスポーツ障害と鍼灸治療 第7週 肘のスポーツ障害① 第8週 肘のスポーツ障害② 第9週 肘のスポーツ障害と鍼灸治療 第10週 手首のスポーツ障害 第11週 手首のスポーツ障害と鍼灸治療 第12週 手のスポーツ障害 第13週 手のスポーツ障害と鍼灸治療 第14週 胸部、背部のスポーツ障害 第15週 胸部、背部のスポーツ障害と鍼灸治療</p>				
<p>テキスト 図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル 医歯薬出版東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 スポーツ鍼灸学</p>	<p>対象学年 2</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀</p>
<p>授業の目標 部位別に発生するスポーツと障害の関係を理解する。 鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して鍼灸施術ができるよう指導する。</p>				
<p>授業の概要 症候別治療</p>				
<p>授業計画 第1週 腰部、殿部のスポーツ障害① 第2週 腰部、殿部のスポーツ障害② 第3週 腰部、殿部のスポーツ障害と鍼灸治療 第4週 骨盤、股関節、大腿のスポーツ障害 第5週 骨盤、股関節、大腿のスポーツ障害と鍼灸治療 第6週 膝のスポーツ障害 第7週 膝のスポーツ障害と鍼灸治療 第8週 下腿のスポーツ障害 第9週 下腿のスポーツ障害と鍼灸治療 第10週 足関節のスポーツ障害 第11週 足関節のスポーツ障害と鍼灸治療 第12週 足部のスポーツ障害① 第13週 足部のスポーツ障害② 第14週 足部のスポーツ障害と鍼灸治療 第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト 図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル 医歯薬出版東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 針灸学（臨床編） 東洋学術出版社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 鍼灸臨床教育 I (病態生理学／生体観察)</p>	<p>対象学年 2</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 市橋 香澄</p>
<p>授業の目標 身体の仕組みを理解するために生体を様々な観察を行う。</p>				
<p>授業の概要 生理学・解剖学と関連付けて、体表や血液から情報を取り出して仕組みを学ぶ</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 身体の仕組みと構造 1 体表 第2週 2 内臓 第3週 循環 1 心臓 第4週 2 血圧 第5週 体液 1 血液 第6週 2 浸透圧 第7週 3 尿 第8週 感覚器 1 聴力 第9週 2 眼底 第10週 聴力検査実習 第11週 眼底検査実習 第12週 血圧検査実習 第13週 尿検査実習 第14週 血液 I 血液型と浸透圧 第15週 血液 II 赤血球白血球HbHtの観察</p>				
<p>テキスト 生理学・解剖学 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験及びレポートの成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 鍼灸臨床教育 I (病態生理学／生体観察)	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 市橋 香澄
<p>授業の目標 臨床生理学的に症状を理解する</p>				
<p>授業の概要 臨床生理学の実習を通して病態を理解する様に学習する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 病態と生理 その仕組み</p> <p>第2週 心疾患と心電図血圧の変化 1</p> <p>第3週 心疾患と心電図血圧の変化 2</p> <p>第4週 肺疾患とスパイロメーターの変化</p> <p>第5週 筋疾患と筋電図</p> <p>第6週 画像診断の基礎 1</p> <p>第7週 画像診断の基礎 2</p> <p>第8週 画像診断の基礎 3</p> <p>第9週 平衡感覚と眼振</p> <p>第10週 心電図実習</p> <p>第11週 スパイロメーター実習</p> <p>第12週 筋電図実習</p> <p>第13週 平衡感覚実習</p> <p>第14週 眼振電図実習</p> <p>第15週 超音波実習</p>				
<p>テキスト 生理機能検査学 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験及びレポートの成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、 不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 鍼灸臨床教育Ⅱ	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 神園 恭一
<p>授業の目標 臨床を想定しての総合評価（診察、検査）の模擬練習を行うことで、臨床へ向けての技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 模擬患者を用いての診察、検査のシミュレーション実習及びその評価。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 臨床の実際</p> <p>第2週 医療面接</p> <p>第3週 診察</p> <p>第4週 検査</p> <p>第5週 シミュレーション実習①</p> <p>第6週 カンファレンス①</p> <p>第7週 シミュレーション実習②</p> <p>第8週 カンファレンス②</p> <p>第9週 シミュレーション実習③</p> <p>第10週 カンファレンス③</p> <p>第11週 シミュレーション実習④</p> <p>第12週 カンファレンス</p> <p>第13週 シミュレーション実習⑤</p> <p>第14週 カンファレンス⑤</p> <p>第15週 まとめ</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 鍼灸臨床教育Ⅲ	対象学年 3	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・ 実習	担当教員 三ヶ尻 彩花
<p>授業の目標</p> <p>鍼灸が期待される、四つの領域について概要を学び、それぞれのニーズに対応できる知識をつける。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>① 地域で期待されるはき治療 ② 高齢社会におけるはき師の役割 ③ 女性の美容と健康管理におけるはき師の役割 ④ QOLの向上とはき師の役割</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 オリエンテーション：はき師を取り巻く現在の環境と社会的ニーズ</p> <p>第2週 地域と密接な関係をもつ施術所のありかた</p> <p>第3週 在宅におけるはき師の役割</p> <p>第4週 通所介護施設におけるはき師の役割</p> <p>第5週 介護支援専門員としての関わり方</p> <p>第6週 高齢者に対する東洋医学的な予防のありかた</p> <p>第7週 高齢者に対するコミュニケーション術</p> <p>第8週 高齢者特有の疾患に対するはき治療</p> <p>第9週 要介護高齢者を抱える家族の現状と注意点</p> <p>第10週 女性のライフステージにあわせたはき治療</p> <p>第11週 妊娠・出産への支援</p> <p>第12週 美容へのアプローチ</p> <p>第13週 緩和医療におけるはき治療</p> <p>第14週 はき師に期待される資質と緩和ケアへの姿勢</p> <p>第15週 緩和医療の実際</p>				
<p>テキスト プリント等</p>				
<p>教材・参考文献 社会あはき学 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90点以上)、優 (80点以上)、良 (70点以上)、可 (60点以上)、不可 (60点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 鍼灸臨床教育Ⅲ</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 三ヶ尻 彩花</p>
<p>授業の目標 鍼灸が期待される、四つの領域について概要を学び、それぞれのニーズに対応できる知識をつける。</p>				
<p>授業の概要 ① 地域で期待されるはき治療 ② 高齢社会におけるはき師の役割 ③ 女性の美容と健康管理におけるはき師の役割 ④ QOLの向上とはき師の役割</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 オリエンテーション：はき師を取り巻く現在の環境と社会的ニーズ</p> <p>第2週 地域と密接な関係をもつ施術所のありかた</p> <p>第3週 在宅におけるはき師の役割</p> <p>第4週 通所介護施設におけるはき師の役割</p> <p>第5週 介護支援専門員としての関わり方</p> <p>第6週 高齢者に対する東洋医学的な予防のありかた</p> <p>第7週 高齢者に対するコミュニケーション術</p> <p>第8週 高齢者特有の疾患に対するはき治療</p> <p>第9週 要介護高齢者を抱える家族の現状と注意点</p> <p>第10週 女性のライフステージにあわせたはき治療</p> <p>第11週 妊娠・出産への支援</p> <p>第12週 美容へのアプローチ</p> <p>第13週 緩和医療におけるはき治療</p> <p>第14週 はき師に期待される資質と緩和ケアへの姿勢</p> <p>第15週 緩和医療の実際</p>				
<p>テキスト プリント等</p>				
<p>教材・参考文献 社会あはき学 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				

授業科目 はりきゅう適応の判断 I	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 市橋 香澄
<p>授業の目標</p> <p>はり師・きゅう師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、はり・きゅうを適切に実施できる能力を身に付ける。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>はり・きゅうを行う上でのリスク管理と各疾患における評価について 部位別の刺鍼・施灸の適応について 疾患別の主症状と刺鍼・施灸の適応について</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 はり師，きゅう師等に関する法律に見る安全な施術・リスクマネジメント</p> <p>第2週 医療面接・診察の記録・治療計画</p> <p>第3週 痛みの評価・QOL の評価</p> <p>第4週 整形外科領域の評価</p> <p>第5週 耳鼻科領域・泌尿生殖器系領域・消化器系領域の評価</p> <p>第6週 消化器系領域・産婦人科領域・精神神経科領域の評価</p> <p>第7週 高齢者のための評価</p> <p>第8週 頭部・顔面部・頸部（末梢神経刺鍼）</p> <p>第9週 頭部・顔面部・頸部（筋肉刺鍼）</p> <p>第10週 上肢（末梢神経刺鍼）</p> <p>第11週 上肢（筋肉刺鍼）</p> <p>第12週 胸部・背部（末梢神経刺鍼・筋肉刺鍼）</p> <p>第13週 腰部（末梢神経刺鍼・筋肉刺鍼）</p> <p>第14週 下肢（末梢神経刺鍼）</p> <p>第15週 下肢（筋肉刺鍼）</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>図解鍼灸療法技術ガイド I・II 文光堂図解鍼灸臨床マニュアル 医歯薬出版株式会社</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 はりきゅう適応の判断Ⅱ	対象学年 3	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 市橋 香澄
授業の目標 はり師・きゅう師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、はり・きゅうを適切に実施できる能力を身に付ける。				
授業の概要 はり・きゅうを行う上でのリスク管理と各疾患における評価について 部位別の刺鍼・施灸の適応について 疾患別の主症状と刺鍼・施灸の適応について				
授業計画 第1週 消化器系の主要症状1（食欲不振、腹痛、悪心・嘔吐） 第2週 消化器系の主要症状2（下痢・便秘） 第3週 呼吸・循環器系の主要症状1（咳・痰、呼吸困難、動悸） 第4週 呼吸・循環器系の主要症状2（高血圧、低血圧、胸痛） 第5週 運動器系の主要症状1（頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛、肩こり） 第6週 運動器系の主要症状2（運動麻痺、末梢神経麻痺、肩関節痛） 第7週 運動器系の主要症状3（肘関節痛、手関節痛、指関節痛） 第8週 運動器系の主要症状4（股関節痛、膝関節痛、足関節痛） 第9週 耳鼻科・眼科系の主要症状1（鼻閉・鼻漏、めまい、耳鳴） 第10週 耳鼻科・眼科系の主要症状2（難聴、眼精疲労） 第11週 泌尿生殖器系の主要症状1（排尿障害、勃起障害、月経痛、帯下） 第12週 泌尿生殖器系の主要症状2（つわり、骨盤位、早産） 第13週 泌尿生殖器系の主要症状3（微弱陣痛、分娩時和痛、乳汁分泌不全） 第14週 精神・神経系の主要症状（頭痛、顔面痛、不眠症、不定愁訴、うつ病） 第15週 その他の主要症状（冷え症、肥満、やせ、脱毛症、かゆみ）				
テキスト				
教材・参考文献 図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版株式会社				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする				
備考				

社会はり学 社会きゅう学

授業科目 <p style="text-align: center;">社会はりきゅう学</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">3</p>	学期 <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	講義方法 <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	担当教員 <p style="text-align: center;">市橋 香澄</p>
授業の目標 はり師を取り巻く社会環境を理解する。				
授業の概要 教科書を中心に適宜、新聞記事等から時事の話しを加えていく。				
授業計画 第1週 はり師・きゅう師をとりまく社会環境 第2週 はり師・きゅう師をとりまく社会環境 第3週 はり師・きゅう師をとりまく社会環境 第4週 はり師・きゅう師をとりまく社会環境 第5週 地域で期待される、はり師・きゅう師の業務 第6週 地域で期待される、はり師・きゅう師の業務 第7週 地域で期待される、はり師・きゅう師の業務 第8週 高齢者に対するはり師・きゅう師の役割 第9週 高齢者に対するはり師・きゅう師の役割 第10週 高齢者に対するはり師・きゅう師の役割 第11週 女性の健康管理 第12週 女性の健康管理 第13週 少子化社会における、はり師・きゅう師の役割 第14週 少子化社会における、はり師・きゅう師の役割 第15週 まとめ				
テキスト 社会あはき学 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 医道の日本				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

社会はり学 社会きゅう学

授業科目 <p style="text-align: center;">社会はりきゅう学</p>	対象学年 <p style="text-align: center;">3</p>	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 <p style="text-align: center;">市橋 香澄</p>
授業の目標 きゅう師を取り巻く社会環境を理解する。				
授業の概要 教科書を中心に適宜、新聞記事等から時事の話しを加えていく。				
授業計画 第1週 併用する物理療法 第2週 併用する物理療法 第3週 併用する物理療法 第4週 併用する物理療法 第5週 ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて 第6週 ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて 第7週 ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて 第8週 スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割 第9週 スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割 第10週 スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割 第11週 施術所の経営管理 第12週 施術所の経営管理 第13週 施術所の経営管理 第14週 施術所の経営管理 第15週 まとめ				
テキスト 社会あはき学 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献 医道の日本				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

専門分野 実習

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はり基礎実技 I	1	前期・後期	講義・実習	神園 恭一
<p>授業の目標</p> <p>はりの基本技術（刺鍼法）を習得し、はり師としての必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>刺鍼について準備から基本手技までを習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス（服装、道具、教室の使用法）</p> <p>第2週 消毒及び道具の管理</p> <p>第3週 基礎練習① 鍼と鍼管 片手挿管法</p> <p>第4週 基本練習② 片手挿管法 押手 弾入法</p> <p>第5週 基本練習③ 押手 弾入法 刺鍼練習器</p> <p>第6週 基本練習④ 刺鍼練習器</p> <p>第7週 自分への刺鍼① 刺鍼の準備 患部の消毒</p> <p>第8週 自分への刺鍼② 下腿への刺鍼練習</p> <p>第9週 自分への刺鍼③ 下腿への刺鍼練習</p> <p>第10週 自分への刺鍼④ 大腿への刺鍼練習</p> <p>第11週 自分への刺鍼⑤ 大腿への刺鍼練習</p> <p>第12週 自分への刺鍼⑥ 下腿経穴への刺鍼練習</p> <p>第13週 自分への刺鍼⑦ 下腿経穴への刺鍼練習</p> <p>第14週 自分への刺鍼⑧ 総合練習</p> <p>第15週 自分への刺鍼⑩ 総合練習</p>				
<p>テキスト</p> <p>図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>はりきゅう基礎技術学 南江堂</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
備考				

専門分野 実習

授業科目 はり基礎実技 I	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 神園 恭一
<p>授業の目標</p> <p>はりの基本技術（刺鍼法）を習得し、はり師としての必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>刺鍼について準備から基本手技までを習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 他者への刺鍼① 諸注意（道具・消毒・過誤・タオルの使い方・体位）</p> <p>第2週 他者への刺鍼② 下腿への刺鍼</p> <p>第3週 他者への刺鍼③ 下腿への刺鍼</p> <p>第4週 他者への刺鍼④ 前腕への刺鍼 第5週 他者への刺鍼⑤ 前腕への刺鍼</p> <p>第6週 他者への刺鍼⑥ 総合練習</p> <p>第7週 他者への刺鍼⑦ 総合練習 第8週 刺鍼法① 斜刺</p> <p>第9週 刺鍼法② 斜刺</p> <p>第10週 刺鍼法③ 斜刺</p> <p>第11週 刺鍼法④ 横刺</p> <p>第12週 刺鍼法⑤ 横刺</p> <p>第13週 刺鍼法⑥ 杉山流基本手技</p> <p>第14週 刺鍼法⑦ 杉山流基本手技</p> <p>第15週 総合練習</p>				
<p>テキスト</p> <p>図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>はりきゅう基礎技術 南江堂</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 はり基礎実技Ⅱ	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 三ヶ尻 彩花
<p>授業の目標</p> <p>取穴が出来るように経絡の走行から理解し、正確な経穴の位置が取れる技術を養う。 刺鍼の技術を復習・確認し、臨床力を養う。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>体表解剖学的に理解をすすめ、身体各部の触診法を習得する。 経穴を取穴し刺鍼する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 概論</p> <p>第2週 骨度法 取穴の際の指標①</p> <p>第3週 上肢 体表解剖と取穴（主に要穴）①</p> <p>第4週 下肢（足部） 体表解剖と取穴（主に膝以下の要穴）①</p> <p>第5週 下肢（足部） 体表解剖と取穴（主に膝以下の要穴）②</p> <p>第6週 腰殿部 体表解剖と取穴、仙骨孔刺鍼</p> <p>第7週 肩背部 体表解剖と取穴①、肩井刺鍼と安全刺入深度</p> <p>第8週 膝の治療 横刺からの刺針転向法</p> <p>第9週 咽喉痛（扁桃炎など）、咳（風邪など）の治療 奇穴</p> <p>第10週 腹部 体表解剖と取穴（主に要穴）、腹診</p> <p>第11週 急性腰痛・寝違えの治療 斜刺の刺入方法 横刺の刺入方法</p> <p>第12週 顔面・頭頸部 体表解剖と取穴①</p> <p>第13週 鼻づまり・眼精疲労の治療 顔面部への刺鍼①、鼻通</p> <p>第14週 灸頭鍼①</p> <p>第15週 簡単な実践練習 問診から治療穴、治療方法の決定まで①</p>				
<p>テキスト</p> <p>解剖学・経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 きゅう基礎実技 I</p>	<p>対象学年 1</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 平山 慶一</p>
<p>授業の目標 きゅうの基本技術（施灸法）を習得し、きゅう師としての必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 施灸の基礎技術として艾の捻りだし、艾炷の作成、艾炷への点火を中心に行なう。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 きゅう基礎実技 I の概要説明、施灸の実際</p> <p>第2週 半米粒大と米粒大の大きさの概念・艾炷の作成練習（半米粒大・板上に立てる）</p> <p>第3週 艾炷の作成練習①（半米粒大・板上に立てる）</p> <p>第4週 艾炷の作成練習②（半米粒大・板上に立てる）、1分間に5壮作成できるように練習</p> <p>第5週 艾炷の作成練習③（艾炷への点火の練習・線香の持ち方・点火方法など）、中間チェック</p> <p>第6週 艾炷の作成練習④（半米粒大艾を作成し、点火を行う一連の動作がスムーズに行える）</p> <p>第7週 艾炷の作成練習⑤（5分で25壮以上施灸出来ることを目標）</p> <p>第8週 艾炷の作成練習⑥（5分で25壮以上施灸出来ることを目標）、中間チェック</p> <p>第9週 艾炷の作成練習⑦（施灸用紙への練習、半米粒大艾を10分間で50壮）</p> <p>第10週 艾炷の作成練習⑧（施灸用紙への練習、半米粒大艾を10分間で50壮）</p> <p>第11週 艾炷の作成練習⑨（施灸温度計での練習、半米粒大艾を60℃±10℃で燃焼）</p> <p>第12週 艾炷の作成練習⑩（施灸温度計での練習、半米粒大艾を60℃±10℃で燃焼）</p> <p>第13週 自分の体を使って施灸練習①</p> <p>第14週 自分の体を使って施灸練習②</p> <p>第15週 前期総合チェック</p>				
<p>テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない100点満点の60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 きゅう基礎実技 I	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 平山 慶一
授業の目標 きゅうの基本技術（施灸法）を習得し、きゅう師としての必要な技術と態度を養う。				
授業の概要 施灸の基礎技術として艾の捻りだし、艾炷の作成、艾炷への点火を中心に行なう。				
授業計画 第1週 自分への施灸練習① 第2週 自分への施灸練習② 第3週 自分への施灸練習③、中間チェック 第4週 他者への施灸練習①（諸注意：消毒、火傷） 第5週 他者への施灸練習①（下腿） 第6週 他者への施灸練習③（下腿） 第7週 他者への施灸練習④（前腕） 第8週 他者への施灸練習⑤（前腕） 第9週 他者への施灸練習⑥（背部） 第10週 他者への施灸練習⑦（背部） 第11週 他者への施灸練習⑧（腹部）、中間チェック 第12週 主要経穴への施灸① 第13週 主要経穴への施灸② 第14週 主要経穴への施灸③ 第15週 後期総合チェック				
テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 きゅう基礎実技Ⅱ	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 三ヶ尻 彩花
授業の目標 取穴が出来るように経絡の走行から理解し、正確な経穴の位置が取れる技術を養う。 施灸の技術を復習・確認し、臨床力を養う。				
授業の概要 体表解剖学的に理解をすすめ、身体各部の触診法を習得する。 経穴を取穴し施灸する。				
授業計画 第1週 概論 第2週 骨度法 取穴の際の指標② 第3週 上肢 体表解剖と取穴（主に要穴）② 第4週 透熱灸 不眠、食中毒、車酔いの治療 第5週 八分灸 井穴への施灸、痔の治療 第6週 治療所見学 第7週 肩背部 体表解剖と取穴② 第8週 膝の治療 簡単な灸頭鍼法 第9週 咽喉痛（扁桃炎など）、咳（風邪など）の治療 三角の灸 第10週 便秘・下痢の治療 マックバーネ点、ランツ圧痛点、便通点 第11週 温筒灸 第12週 顔面・頭頸部 体表解剖と取穴② 第13週 鼻づまり・眼精疲労の治療 顔面部への刺鍼② 第14週 灸頭鍼② 第15週 簡単な実践練習 問診から治療穴、治療方法の決定まで②				
テキスト 解剖学・経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 はりきゅう応用実技 I	対象学年 2	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀 神園 恭一
授業の目標 臨床に必要なさまざまな技術と態度を身につけさせる。				
授業の概要 各種刺鍼法・施灸法技術を習得させる。				
授業計画 第1週 灸頭鍼法① 第2週 灸頭鍼法② 第3週 知熱灸 第4週 棒灸、温筒灸 第5週 小児鍼（接触鍼と摩擦鍼） 成立ち／講義、米山鍼の調整 第6週 小児鍼（接触鍼と摩擦鍼） 実技 知熱灸 第7週 箱灸（枳灸） 作製 第8週 箱灸、隔物灸解説 第9週 隔物灸 生姜灸／大蒜灸／塩灸／味噌灸／大蒜味噌灸／和紙灸竹灸／ 薬灸／押し灸（枇杷の葉灸）／その他 第10週 皮内鍼、円皮鍼、スキン鍼法 肋間神経痛の治療 第11週 トリガーポイント① 第12週 トリガーポイント② 第13週 中国式刺入法 基本手技（切指・扶植・舒張・并指・挟持）、長鍼 第14週 頭皮鍼 第15週 吸玉（吸角） 基本手技、刺絡説明				
テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

<p>授業科目 はりきゅう応用実技 I</p>	<p>対象学年 2</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀 神園 恭一</p>
<p>授業の目標 臨床に必要なさまざまな技術と態度を身につけさせる。</p>				
<p>授業の概要 各種刺鍼法・施灸法技術を習得させる。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 灸頭鍼法①</p> <p>第2週 灸頭鍼法②</p> <p>第3週 知熱灸</p> <p>第4週 棒灸、温筒灸</p> <p>第5週 小児鍼（接触鍼と摩擦鍼） 成立ち／講義、米山鍼の調整</p> <p>第6週 小児鍼（接触鍼と摩擦鍼） 実技 知熱灸</p> <p>第7週 箱灸（枳灸） 作製</p> <p>第8週 箱灸、隔物灸解説</p> <p>第9週 隔物灸 生姜灸／大蒜灸／塩灸／味噌灸／大蒜味噌灸／和紙灸竹灸／ 薬灸／押し灸（枇杷の葉灸）／その他</p> <p>第10週 皮内鍼、円皮鍼、スキン鍼法 肋間神経痛の治療</p> <p>第11週 トリガーポイント①</p> <p>第12週 トリガーポイント②</p> <p>第13週 中国式刺入法 基本手技（切指・扶植・舒張・并指・挟持）、長鍼</p> <p>第14週 頭皮鍼</p> <p>第15週 吸玉（吸角） 基本手技、刺絡説明</p>				
<p>テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

専門分野 実習

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	木場 由衣登
<p>授業の目標 東洋医学的見地に基づいて診察から治療法までを習得させることにより、臨床へ向けて必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 東洋医学における診断、証の立て方、治療法についての知識と技術を習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス：東洋医学の臨床について</p> <p>第2週 望聞問切について</p> <p>第3週 望診（1）：顔面診 色相と顔貌と五蔵の関係</p> <p>第4週 望診（2）：舌診① 要点説明</p> <p>第5週 望診（3）：舌診② 実践に向けての知識・演習</p> <p>第6週 聞診（1）：体臭</p> <p>第7週 聞診（2）：声と呼吸の症状に関する診断</p> <p>第8週 問診（1）：睡眠の問診、陰虚・陽虚（虚劳・勞倦）について</p> <p>第9週 問診（2）：飲食と大小便の問診</p> <p>第10週 切診（1）：脈診の種類と仕方</p> <p>第11週 切診（2）：六部定位診の基礎と実践</p> <p>第12週 切診（3）：六部定位診の臨床応用</p> <p>第13週 切診（4）：脈状診の解説と実践</p> <p>第14週 切診（5）：脈状診の臨床応用</p> <p>第15週 四診のまとめ・演習</p>				
<p>テキスト 東洋医学概論・東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>経絡治療のすすめ 医道の日本社脈状診の研究</p> <p>緑書房 中医蔵象学 人民衛生出版社</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
備考				

専門分野 実習

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	木場 由衣登
<p>授業の目標</p> <p>経絡治療の基本的実技と診断を学び、卒業までに様々な臨床に対応できるような実践的技術と知識を体得する。また、臨床演習ではカルテを一枚以上記入できるようになること。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>経絡治療の基礎となる手技（刺法・取穴法・脈診）と各症状・体質についての知識を解説し、臨床ができるように演習を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 演習① 祖脈診と脈診の基本姿勢</p> <p>第2週 演習② 選穴と脈診の基礎，取穴①：肺経</p> <p>第3週 演習③ 取穴②：大腸経，鍼実技①：押手</p> <p>第4週 演習④ 取穴③：脾経，鍼実技②：刺手，脈診演習</p> <p>第5週 演習⑤ 取穴④：胃経・腎経，鍼実技③：補法実践，脈診演習</p> <p>第6週 演習⑥ 取穴⑤：膀胱経，鍼実技④：散鍼の基礎，脈診演習</p> <p>第7週 演習⑦ 取穴⑥：肝経，鍼実技⑤：補法と瀉法の散鍼，脈診演習</p> <p>第8週 演習⑧ 取穴⑦：胆経，灸実技：知熱灸と糸状灸，脈診演習</p> <p>第9週 演習⑨ 取穴⑧：三焦経・小腸経，鍼実技⑦：局所の散鍼と刺入，脈診演習</p> <p>第10週 演習⑩ 取穴⑨：心経・心包経，治療各論①：腰下肢痛，カルテ記入</p> <p>第11週 演習⑪ 取穴⑩：脈証からの選穴，治療各論②：頸部・肩背部と上肢の症状，カルテ記入</p> <p>第12週 演習⑫ 治療各論③：感冒・発熱と呼吸器系症状，カルテ記入</p> <p>第13週 演習⑬ 治療各論④：体質の症状（倦怠感，不眠，食欲不振，高血圧），カルテ記入</p> <p>第14週 演習⑭ 治療各論⑤：生殖器・泌尿器系の症状，カルテ記入</p> <p>第15週 演習⑮ 治療各論⑥：各種アレルギー体質・難病について，カルテ記入</p>				
<p>テキスト</p> <p>東洋医学概論・東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>経絡治療のすすめ 医道の日本社脈状診の研究 緑書房</p>				
<p>成績評価の方法定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
備考				

授業科目 はりきゅう応用実技Ⅲ (臨床実習前施術実技)	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 神園 恭一 中根 一
授業の目標 臨床に必要な診察及び理学検査の技術を習得させ、臨床に必要な技術と態度を身につけさせる。				
授業の概要 臨床に必要な視診、問診、聴診、触診（臨床検査）の技術を習得させる。				
授業計画 第1週 身体計測、姿勢 第2週 反射検査、知覚検査 第3週 血圧測定、聴診 第4週 整形外科検査法 頸肩腕症候群 第5週 整形外科検査法 五十肩 第6週 整形外科検査法 股関節の疾患 第7週 整形外科検査法 膝関節の疾患 第8週 整形外科検査法 腰痛症 第9週 視診・問診① 第10週 視診・問診② 第11週 総合練習 第12週 総合練習 第13週 総合練習 第14週 総合練習 第15週 総合練習				
テキスト 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 はりきゅう応用実技Ⅲ (臨床実習前施術実技)	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義・ 実習	担当教員 神園 恭一 中根 一
授業の目標 臨床に必要な診察及び理学検査の技術を習得させ、臨床に必要な技術と態度を身につけさせる。				
授業の概要 臨床に必要な視診、問診、聴診、触診（臨床検査）の技術を習得させる。				
授業計画 第1週 身体計測、姿勢 第2週 反射検査、知覚検査 第3週 血圧測定、聴診 第4週 整形外科検査法 頸肩腕症候群 第5週 整形外科検査法 五十肩 第6週 整形外科検査法 股関節の疾患 第7週 整形外科検査法 膝関節の疾患 第8週 整形外科検査法 腰痛症 第9週 視診・問診① 第10週 視診・問診② 第11週 総合練習 第12週 総合練習 第13週 総合練習 第14週 総合練習 第15週 総合練習				
テキスト 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 はりきゅう臨床実技 I	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀 四井 純子
授業の目標 身体各部位及び主な経穴への刺鍼技術を学ぶことで、臨床へ向けて技術と態度を養う。				
授業の概要 身体各部及び主な経穴への刺鍼技術を習得する。				
授業計画 第 1 週 概論 第 2 週 主要経穴への刺鍼①（手の太陰肺経）① 第 3 週 主要経穴への刺鍼①（手の太陰肺経）② 第 4 週 主要経穴への刺鍼②（手の陽明大腸経）① 第 5 週 主要経穴への刺鍼②（手の陽明大腸経）② 第 6 週 主要経穴への刺鍼③（足の陽明胃経）① 第 7 週 主要経穴への刺鍼③（足の陽明胃経）② 第 8 週 主要経穴への刺鍼④（足の太陰脾経）① 第 9 週 主要経穴への刺鍼④（足の太陰脾経）② 第 10 週 主要経穴への刺鍼⑤（手の少陰心経）① 第 11 週 主要経穴への刺鍼⑤（手の少陰心経）② 第 12 週 主要経穴への刺鍼⑥（手の太陽小腸経）① 第 13 週 主要経穴への刺鍼⑥（手の太陽小腸経）② 第 14 週 主要経穴への刺鍼⑦（足の太陽膀胱経）① 第 15 週 主要経穴への刺鍼⑦（足の太陽膀胱経）②				
テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 尾崎昭弘 著 医歯薬出版株式会社				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

<p>授業科目 はりきゅう臨床実技 I</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀 四井 純子</p>
<p>授業の目標 身体各部位及び主な経穴への刺鍼技術を学ぶことで、臨床へ向けて技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 身体各部及び主な経穴への刺鍼技術を習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 主要経穴への刺鍼⑧（足の少陰腎経）①</p> <p>第2週 主要経穴への刺鍼⑧（足の少陰腎経）②</p> <p>第3週 主要経穴への刺鍼⑨（手の厥陰心包経）①</p> <p>第4週 主要経穴への刺鍼⑨（手の厥陰心包経）②</p> <p>第5週 主要経穴への刺鍼⑩（手の少陽三焦経）①</p> <p>第6週 主要経穴への刺鍼⑩（手の少陽三焦経）②</p> <p>第7週 主要経穴への刺鍼⑪（足の少陽胆経）①</p> <p>第8週 主要経穴への刺鍼⑪（足の少陽胆経）②</p> <p>第9週 主要経穴への刺鍼⑫（足の厥陰肝経）①</p> <p>第10週 主要経穴への刺鍼⑫（足の厥陰肝経）②</p> <p>第11週 主要経穴への刺鍼⑬（督脈経・任脈経）①</p> <p>第12週 主要経穴への刺鍼⑬（督脈経・任脈経）②</p> <p>第13週 特別講義（基本手技、経絡治療、美容鍼灸、臨床鍼灸、鍼灸院経営、接遇）</p> <p>第14週 総合練習①</p> <p>第15週 総合練習②</p>				
<p>テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 尾崎昭弘 著 医歯薬出版株式会社</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 はりきゅう臨床実技Ⅱ</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀 平山 慶一</p>
<p>授業の目標 臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 疾患を想定しての臨床応用技術を習得させる。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 鍼通電療法 低周波置鍼①</p> <p>第2週 鍼通電療法 低周波置鍼②</p> <p>第3週 中医学 概要/動作時痛</p> <p>第4週 中医学 井穴診断/背候診</p> <p>第5週 中医学 六祖脈（脈診）</p> <p>第6週 難経による治療穴の選定 臓象と症状／難経六十九難</p> <p>第7週 高血圧 血圧測定／人迎洞</p> <p>第8週 中医学 舌診</p> <p>第9週 中医学 腹診</p> <p>第10週 中医学 問診／八綱弁証</p> <p>第11週 中医学 復習</p> <p>第12週 中医学 試験／フィードバック</p> <p>第13週 物療</p> <p>第14週 小児はり 概要/基礎</p> <p>第15週 小児はり 臨床/応用</p>				
<p>テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 はりきゅう臨床実技Ⅱ</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀 平山 慶一</p>
<p>授業の目標 臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。</p>				
<p>授業の概要 疾患を想定しての臨床応用技術を習得させる。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 鍼通電療法 低周波置鍼①</p> <p>第2週 鍼通電療法 低周波置鍼②</p> <p>第3週 中医学 概要/動作時痛</p> <p>第4週 中医学 井穴診断/背候診</p> <p>第5週 中医学 六祖脈（脈診）</p> <p>第6週 難経による治療穴の選定 臓象と症状／難経六十九難</p> <p>第7週 高血圧 血圧測定／人迎洞</p> <p>第8週 中医学 舌診</p> <p>第9週 中医学 腹診</p> <p>第10週 中医学 問診／八綱弁証</p> <p>第11週 中医学 復習</p> <p>第12週 中医学 試験／フィードバック</p> <p>第13週 物療</p> <p>第14週 小児はり 概要/基礎</p> <p>第15週 小児はり 臨床/応用</p>				
<p>テキスト 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 はりきゅう臨床実技Ⅲ (手技・物理療法)</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀</p>
<p>授業の目標 西洋医学的見地に基づき、身体各部の触察及び関節・軟部組織の状態を把握する技術を養う。</p>				
<p>授業の概要 身体各部の見方及び運動器系の総合的評価を習得する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 ガイダンス：触察の基礎</p> <p>第2週 触察の実際①</p> <p>第3週 触察の実際②（前腕で練習）</p> <p>第4週 物理療法</p> <p>第5週 腰部の見方①</p> <p>第6週 腰部の見方②</p> <p>第7週 殿部及び股関節の見方①</p> <p>第8週 殿部及び股関節の見方②</p> <p>第9週 背部・肩関節の見方①</p> <p>第10週 背部・肩関節の見方②</p> <p>第11週 頸部の見方①</p> <p>第12週 頸部の見方②</p> <p>第13週 頭部の見方</p> <p>第14週 総合練習①</p> <p>第15週 総合練習②</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献 ボディ・ナビゲーション 医道の日本</p>				
<p>成績評価の方法 授業内における態度及び技術等を総合的に判断して評価する。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、 不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 はりきゅう臨床実技Ⅳ	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 神園 恭一／平山 慶一 木場 由衣登
授業の目標 臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。				
授業の概要 疾患別に臨床応用技術を習得させる。				
授業計画 第1週 五十肩 第2週 肩こり 頸肩腕痛 第3週 腰痛 坐骨神経痛① 第4週 腰痛 坐骨神経痛② 第5週 耳鼻咽喉疾患 めまい 第6週 耳鼻咽喉疾患 難聴・耳鳴 第7週 生活習慣病（肥満，高血圧，糖尿病）① 第8週 生活習慣病（肥満，高血圧，糖尿病）② 第9週 頭痛 眼精疲労 第10週 変形性関節症 第11週 腹痛 下痢 便秘 第12週 婦人科・産科疾患（月経痛，月経困難症，不妊，逆子，他）① 第13週 婦人科・産科疾患（月経痛，月経困難症，不妊，逆子，他）② 第14週 風邪症状（発熱，咳嗽，鼻閉，他） 第15週 慢性疲労（不眠，疲労，他）				
テキスト 臨床医学総論・臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

<p>授業科目 臨床実習</p>	<p>対象学年 1</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀/神園 恭一/木場 由衣登/平山 慶一/三ヶ尻 彩花/荘田 和則</p>
<p>授業の目標 鍼灸院の実際を見て鍼灸医療の流れを知る</p>				
<p>授業の概要 施術所の外観・内観の見学と施術の様子の見学</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 見学：待合室①</p> <p>第2週 見学：待合室②</p> <p>第3週 見学：施術室と設備①</p> <p>第4週 見学：施術室と設備②</p> <p>第5週 見学：衛生室①</p> <p>第6週 見学：衛生室②</p> <p>第7週 見学：受付業務の流れ①</p> <p>第8週 見学：受付業務の流れ②</p> <p>第9週 見学：医療面接①</p> <p>第10週 見学：医療面接②</p> <p>第11週 見学：四診法・検査法①</p> <p>第12週 見学：四診法・検査法②</p> <p>第13週 見学：施術①</p> <p>第14週 見学：施術②</p> <p>第15週 見学：施術③</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献 覚えておきたい事故防止の知識 マンガ鍼灸臨床インシデント 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 実習の態度、能力を客観的に評価する。 なお、100点満点の60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 臨床実習</p>	<p>対象学年 2</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀／神園 恭一／木場 由衣登／平山 慶一／三ヶ尻 彩花／莊田 和則</p>
<p>授業の目標 受付から医療面接までを行うことができる。</p>				
<p>授業の概要 教員の指導のもと受付から医療面接までを行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 受付業務：電話対応</p> <p>第2週 受付業務：患者対応</p> <p>第3週 誘導から施術前のセッティング①</p> <p>第4週 誘導から施術前のセッティング②</p> <p>第5週 患者とのアイスブレイク①</p> <p>第6週 患者とのアイスブレイク②</p> <p>第7週 患者とのアイスブレイク③</p> <p>第8週 医療面接（主訴を聴く）①</p> <p>第9週 医療面接（主訴を聴く）②</p> <p>第10週 医療面接（現病歴または経過を聴く）①</p> <p>第11週 医療面接（現病歴または経過を聴く）②</p> <p>第12週 医療面接（既往歴、社会歴、家族歴を聴く）③</p> <p>第13週 医療面接（既往歴、社会歴、家族歴を聴く）④</p> <p>第14週 医療面接（解釈モデルを聴く）⑤</p> <p>第15週 医療面接（解釈モデルを聴く）⑥</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献 覚えておきたい事故防止の知識 マンガ鍼灸臨床インシデント 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 実習の態度、能力を客観的に評価する。 なお、100点満点の60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目</p> <p style="text-align: center;">臨床実習</p>	<p>対象学年</p> <p style="text-align: center;">2</p>	<p>学期</p> <p style="text-align: center;">前期・後期</p>	<p>講義方法</p> <p style="text-align: center;">講義・実習</p>	<p>担当教員</p> <p>杉若 晃紀／神園 恭一／木場 由衣登／平山 慶一／三ヶ尻 彩花／莊田 和則</p>
<p>授業の目標</p> <p>四診法・検査法とその結果に関する説明を行うことが出来る。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>教員の指導のもと四診法・検査法・病態把握とそれに関わる各種説明を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 四診法・検査法を行う際の導入</p> <p>第2週 四診法・検査法を行う際の導入</p> <p>第3週 四診法・検査法補助と西洋医学的病態把握①</p> <p>第4週 四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握②</p> <p>第5週 四診法・検査法補助と西洋医学的病態把握③</p> <p>第6週 四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握①</p> <p>第7週 四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握②</p> <p>第8週 四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握③</p> <p>第9週 施術におけるインシデント回避①</p> <p>第10週 施術におけるインシデント回避②</p> <p>第11週 施術方針の説明と施術補助①</p> <p>第12週 施術方針の説明と施術補助②</p> <p>第13週 施術方針の説明と施術補助③</p> <p>第14週 今後の施術計画と生活指導①</p> <p>第15週 今後の施術計画と生活指導②</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>覚えておきたい事故防止の知識 マンガ鍼灸臨床インシデント 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>実習の態度、能力を客観的に評価する。</p> <p>なお、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

<p>授業科目 臨床実習</p>	<p>対象学年 3</p>	<p>学期 前期・後期</p>	<p>講義方法 講義・実習</p>	<p>担当教員 杉若 晃紀／神園 恭一／木場 由衣登／平山 慶一／三ヶ尻 彩花／莊田 和則</p>
<p>授業の目標 実際の臨床現場の流れを理解し患者に対し適切な対応ができ、適切なカルテづくりが出来る。</p>				
<p>授業の概要 教員の指導の下、患者に対して医療面接・四診法・取穴・施術補助・カルテ作成を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 カルテ作成①</p> <p>第2週 カルテ作成②</p> <p>第3週 医療面接・四診法・検査法</p> <p>第4週 取穴と灸施術（知熱灸）</p> <p>第5週 取穴と灸施術（知熱灸）</p> <p>第6週 取穴と灸施術（知熱灸）</p> <p>第7週 取穴と灸施術（透熱灸）</p> <p>第8週 取穴と灸施術（透熱灸）</p> <p>第9週 取穴と灸施術（透熱灸）</p> <p>第10週 取穴と置鍼①</p> <p>第11週 取穴と置鍼②</p> <p>第12週 取穴と鍼通電①</p> <p>第13週 取穴と鍼通電②</p> <p>第14週 取穴と灸頭鍼①</p> <p>第15週 取穴と灸頭鍼②</p>				
<p>テキスト</p>				
<p>教材・参考文献 覚えておきたい事故防止の知識 マンガ鍼灸臨床インシデント 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 実習の態度、能力を客観的に評価する。 なお、100点満点の60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

総合領域

授業科目 総合領域 I (スポーツトレーナー)	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 市橋 香澄
<p>授業の目標</p> <p>スポーツトレーナーに必要な基礎知識、およびコンディショニングに関する知識を習得する。 また、スポーツマッサージとテーピング技術を体得する</p>				
<p>授業の概要</p> <p>スポーツトレーナーは一般市民の健康や体力づくりから、トップアスリートの外傷・障害の予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。これに必要な基礎的知識と技術を解説していく。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 スポーツトレーナーとは</p> <p>第2週 スポーツトレーナーのための基礎知識①</p> <p>第3週 スポーツトレーナーのための基礎知識②</p> <p>第4週 スポーツトレーナーのための基礎知識③</p> <p>第5週 スポーツトレーナーのための基礎知識④</p> <p>第6週 スポーツトレーナーのための基礎知識⑤</p> <p>第7週 コンディショニングの理論と実践①</p> <p>第8週 コンディショニングの理論と実践②</p> <p>第9週 コンディショニングの理論と実践③</p> <p>第10週 スポーツマッサージ①</p> <p>第11週 スポーツマッサージ②</p> <p>第12週 テーピング基礎 アイシング基礎</p> <p>第13週 外傷・障害・事故への対処方法 救急処置</p> <p>第14週 外傷・障害・事故への対処方法 肩・肘・手関節・手</p> <p>第15週 テーピング実技 上肢</p>				
<p>テキスト</p> <p>新スポーツトレーナーマニュアル 南江堂</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>復帰をめざすスポーツ整形外科 メジカルビュー社</p> <p>ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 総合領域 I (スポーツトレーナー)	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 市橋 香澄
授業の目標 スポーツトレーナーに必要な基礎知識、およびコンディショニングに関する知識を修得する。 また、スポーツマッサージとテーピング技術を体得する				
授業の概要 スポーツトレーナーは一般市民の健康や体力づくりから、トップアスリートの外傷・障害の予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。これに必要な基礎的知識と技術を解説していく。				
授業計画 第1週 外傷・障害・事故への対処方法 膝・足部・足関節・ 第2週 外傷・障害・事故への対処方法 大腿部・下腿部・腰部・骨盤部・股関節 第3週 テーピング実技 下肢① 第4週 テーピング実技 下肢② 第5週 性・年齢に関連した対処方法 第6週 内科的疾患への対処方法① 第7週 内科的疾患への対処方法② 第8週 種目別における役割と注意点 総論・陸上競技・水泳 第9週 種目別における役割と注意点 バスケットボール・バレーボール 第10週 テーピング実技 第11週 種目別における役割と注意点 サッカー・ラグビー 第12週 種目別における役割と注意点 野球・その他 第13週 テーピング実技 第14週 スポーツトレーナーの多様な役割と注意点① 第15週 スポーツトレーナーの多様な役割と注意点②				
テキスト 新スポーツトレーナーマニュアル 南江堂				
教材・参考文献 復帰をめざすスポーツ整形外科 メジカルビュー社 ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

専門分野 総合領域

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅱ (あはき史、医学史等を含む)	2	前期・後期	講義・実習	木場 由衣登
<p>授業の目標 古代から現在までの医学史と文献の取り扱い方を学ぶことで、現代と未来に役立つ鍼灸按摩の位置と方向性を考える。</p>				
<p>授業の概要 前半は、伝統医学の歴史と医書の取り扱い方を学ぶ。後半は、文献の取り扱い方を学んだ上で実際に古典文献を読み、その内容を理解する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 中国と日本の鍼灸按史概説（中医針灸と経絡治療の概要）</p> <p>第2週 漢魏三国晋代の医史と文献</p> <p>第3週 隋唐宋代の医史と文献 第4週 金元明清代の医史と文献</p> <p>第5週 奈良平安鎌倉時代の鍼灸按摩の歴史</p> <p>第6週 安土桃山から江戸時代の鍼灸按摩の歴史と文献</p> <p>第7週 江戸時代の鍼灸按摩の歴史と文献</p> <p>第8週 明治大正昭和期の鍼灸按摩の歴史と文献</p> <p>第9週 経絡治療の成立と基礎理論</p> <p>第10週 『素問』の書誌版本と医古文の基礎①（工具書）</p> <p>第11週 『素問』の講読と医古文の基礎②（書誌と版本）</p> <p>第12週 『靈枢』の書誌版本と医古文の基礎③（校勘と訓詁）</p> <p>第13週 『靈枢』の講読と医古文の基礎④（句読と訓読）</p> <p>第14週 明代・江戸時代の医史文献と医古文の基礎⑤（語法と修辞）</p> <p>第15週 明代・江戸時代の医書と病證学</p>				
テキスト 配布資料				
<p>教材・参考文献 『新版漢方の歴史』（著者：小曾戸洋）、『針灸の歴史』（著者：小曾戸洋、天野陽介）</p> <p>『奥村三策の生涯—近代鍼灸教育の父』（著者：松井繁）</p> <p>『医古文の基礎』（編著：劉振民・周篤文・他、翻訳：荒川緑・宮川浩也・他）</p> <p>『中国医学古典と日本—書誌と伝承』（著者：小曾戸洋）、『黄帝医籍研究』（著者：真柳誠）</p> <p>『東洋医学善本叢書』（主編：篠原孝市）、『黄帝内経素問校注』（著者：郭霽春）他</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				

授業科目 総合領域Ⅲ (西洋医学系)	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 平山 慶一
授業の目標 鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。				
授業の概要 治療学 臨床心理				
授業計画 第1週 診察法 腰痛 第2週 診察法 三叉神経痛 肋間神経痛 第3週 診察法 後頭神経痛 坐骨神経痛 第4週 診察法 不定愁訴 食欲不振 第5週 免疫療法、輸血と輸液 治療学 概要 第6週 治療法の種類 薬物療法 第7週 治療法の種類 生活指導と栄養療法 第8週 物理療法 第9週 治療法の種類 外科的療法、リハビリテーション 第10週 治療法の種類 放射線療法 レーザー療法 第11週 ペインコントロール 救急療法 第12週 薬物療法 第13週 理学療法 第14週 手術療法 第15週 臨床心理				
テキスト 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ビジュアルノート (メディックメディア社)				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

専門分野 総合領域

授業科目 総合領域Ⅳ (東洋医学系)	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 木場 由衣登
<p>授業の目標 教科書『東洋医学概論』における古代の鍼法・灸法について理解し、鍼灸成立の歴史背景を理解する。</p>				
<p>授業の概要 テキストを基本としながら、古典における鍼法・灸法・その他の伝統医学的治療法について解説する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 治療論：総論及び原則</p> <p>第2週 養生について</p> <p>第3週 治療法（1）：古代九鍼①</p> <p>第4週 治療法（2）：古代九鍼②</p> <p>第5週 治療法（3）：古代九鍼③</p> <p>第6週 治療法（4）：古代九鍼④</p> <p>第7週 刺法（1）：三刺</p> <p>第8週 刺法（2）：五刺</p> <p>第9週 刺法（3）：九刺</p> <p>第10週 刺法（4）：十二刺</p> <p>第11週 補瀉法</p> <p>第12週 治療原則：経絡治療・中医鍼灸</p> <p>第13週 手技療法：按摩・導引</p> <p>第14週 薬物療法：漢方療法概説</p> <p>第15週 薬物療法：漢方療法治療論まとめ</p>				
<p>テキスト 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献 中医学の基礎 東洋学術出版社 経絡治療のすすめ 医道の日本社</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 総合領域V (西洋医学系)	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 三ヶ尻 彩花
<p>授業の目標 広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。</p>				
<p>授業の概要 循環器疾患・内分泌疾患・代謝栄養疾患・腎尿路疾患を行う。概要・症状・治療等について講義を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 循環器疾患 (心不全・僧帽弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症)</p> <p>第2週 循環器疾患 (大動脈弁狭窄症・大動脈弁閉鎖不全症・心房細動)</p> <p>第3週 循環器疾患 (狭心症・心筋梗塞・動脈硬化)</p> <p>第4週 循環器疾患 (大動脈瘤・大動脈解離・高血圧)</p> <p>第5週 内分泌疾患 (クッシング病・先端巨大症・成長ホルモン分泌不全性低身長症)</p> <p>第6週 内分泌疾患 (尿崩症・甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症)</p> <p>第7週 内分泌疾患 (クッシング症候群・原発性アルドステロン症)</p> <p>第8週 内分泌疾患 (アジソン病・褐色細胞腫)</p> <p>第9週 代謝・栄養疾患 (糖尿病・高脂血症・肥満症)</p> <p>第10週 代謝・栄養疾患 (痛風・ビタミン欠乏症過剰症・骨軟化症)</p> <p>第11週 腎尿器疾患 (急性糸球体腎炎) (ネフローゼ症候群)</p> <p>第12週 腎尿器疾患 (急性腎不全・慢性腎不全)</p> <p>第13週 腎尿器疾患 (腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎)</p> <p>第14週 腎尿器疾患 (腎細胞癌・膀胱癌)</p> <p>第15週 腎尿器疾患 (腎尿管結石症) (前立腺肥大・前立腺癌)</p>				
<p>テキスト 臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献 内科学 I・II 医学書院 ハリソン内科学 メディカルサイエンスインターナショナル標準整形外科学 医学書院 オールカラー家庭の医学 成美堂出版</p>				
<p>成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする</p>				
<p>備考</p>				

授業科目 総合領域V (西洋医学系)	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 三ヶ尻 彩花
授業の目標 広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。				
授業の概要 血液疾患・神経疾患・自己免疫疾患・外科疾患・麻酔科疾患・婦人科疾患・皮膚科疾患・眼科疾患・耳鼻科疾患・精神科疾患を行う。概要・症状・治療等について講義を行う。				
授業計画 第1週 血液・造血器疾患（鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血・再生不良性貧血） 第2週 血液・造血器疾患（白血病・悪性リンパ腫・紫斑病・血友病） 第3週 神経疾患（脳塞栓・脳血栓・脳出血・クモ膜下出血・一過性脳虚血発作） 第4週 神経疾患（髄膜炎・脳腫瘍・脊髄腫瘍） 第5週 神経疾患（パーキンソン病・脳性麻痺・脊髄小脳変性症） 第6週 神経疾患（アルツハイマー病・重症筋無力症・進行性筋ジストロフィー症） 第7週 神経疾患（筋萎縮性側索硬化症・ギラン・バレー症候群） 第8週 神経疾患（絞扼性末梢神経障害・神経痛・緊張型頭痛・片頭痛） 第9週 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス・進行性全身性硬化症・ベーチェット病） 第10週 自己免疫疾患（シェーグレン症候群・関節リウマチ） 第11週 外科・麻酔科疾患（熱傷・凍傷・ショック・心肺蘇生術・局所麻酔・神経ブロック） 第12週 婦人科疾患（子宮癌・乳癌・更年期障害・子宮筋腫） 第13週 皮膚科・眼科疾患（接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・結膜炎・白内障・緑内障） 第14週 耳鼻科疾患（メニエール病・突発性難聴・アレルギー性鼻炎） 第15週 精神科疾患（神経症・統合失調症・うつ病）				
テキスト 臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 内科学Ⅰ・Ⅱ 医学書院 ハリソン内科学 メディカルサイエンスインターナショナル標準整形外科学 医学書院 オールカラー家庭の医学 成美堂出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 総合領域Ⅵ (西洋医学系)	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 市橋 香澄
授業の目標 各科目の問題演習を通じて、1・2年次までに学んだ内容を復習し、総合力を身につけさせる。また、模擬試験を実施し、自身の実力を確認し、今後の学習に活かせるようにする。				
授業の概要 国家試験に出題された分野を中心に問題演習及び解説を行う。				
授業計画 第1週 国家試験問題演習 (病理学) 第2週 国家試験問題演習 (病理学) 第3週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・感染症) 第4週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・消化器疾患) 第5週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・肝胆膵疾患) 第6週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・呼吸器疾患) 第7週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・腎泌尿器疾患) 第8週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・内分泌疾患) 第9週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・代謝疾患) 第10週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・循環器疾患) 第11週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・血液疾患) 第12週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・膠原病・リウマチ疾患) 第13週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・整形外科疾患) 第14週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・神経疾患) 第15週 国家試験問題演習 (臨床医学各論・その他疾患)				
テキスト 病理学・臨床医学各論 東洋療法学校協会編				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期的に模擬試験を行い、国家試験に準じた評価法で評価を行う。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 総合領域Ⅶ (東洋医学系)	対象学年 3	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 杉若 晃紀
授業の目標 各科目の問題演習を通じて、1・2年次までに学んだ内容を復習し、総合力を身につけさせる。また、模擬試験を実施し、自身の実力を確認し、今後の学習に活かせるようにする。				
授業の概要 国家試験に出題された分野を中心に問題演習及び解説を行う。				
授業計画 第1週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ① 第2週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ② 第3週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ③ 第4週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ④ 第5週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ⑤ 第6週 国家試験問題演習 (東洋医学概論、はりきゅう理論) ⑥ 第7週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・診断と治療) 第8週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・施術の基礎) 第9週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・症候に対する東西両医学からのアプローチ) 第10週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・症候に対する東西両医学からのアプローチ) 第11週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・疾患に対する東西両医学からのアプローチ) 第12週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・疾患に対する東西両医学からのアプローチ) 第13週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・高齢者に対する鍼灸施術) 第14週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・スポーツ領域における鍼灸施術) 第15週 国家試験問題演習 (東洋医学臨床論・スポーツ領域における鍼灸施術)				
テキスト 東洋医学概論 はりきゅう理論 東洋医学臨床論 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
教材・参考文献				
成績評価の方法 定期的に模擬試験を行い、国家試験に準じた評価法で評価を行う。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、 不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目 総合領域Ⅷ (経絡経穴学)	対象学年 3	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 木場 由衣登
<p>授業の目標</p> <p>十二正経と任督脈の全経穴について、取穴法と身体上の解剖学的位置を修得する。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>全経絡の経穴を教科書に従って取穴し、その取穴法を理解し、各穴の解剖学的な位置と臨床的意義を解説する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 手太陰肺経の取穴と筋肉</p> <p>第2週 手陽明大腸経の取穴と筋肉</p> <p>第3週 足陽明胃経の取穴と筋肉（1）</p> <p>第4週 足陽明胃経の取穴と筋肉（2）</p> <p>第5週 足太陰脾経の取穴と筋肉</p> <p>第6週 手少陰心経の取穴と筋肉</p> <p>第7週 手太陽小腸経の取穴と筋肉</p> <p>第8週 足太陽膀胱経の取穴と筋肉（1）</p> <p>第9週 足太陽膀胱経の取穴と筋肉（2）</p> <p>第10週 足少陰腎経の取穴と筋肉</p> <p>第11週 手厥陰心包経の取穴と筋肉</p> <p>第12週 手少陽三焦経の取穴と筋肉</p> <p>第13週 足少陽胆経の取穴と筋肉（1）</p> <p>第14週 足少陽胆経の取穴と筋肉（2）</p> <p>第15週 足厥陰肝経の取穴と筋肉</p>				
<p>テキスト</p> <p>新編経絡経穴概論（第2版） 医道の日本社</p>				
<p>教材・参考文献</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。</p> <p>秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				

教育演習

教育演習 鍼灸臨床に必要な、知識の習得を目的とする

授業科目 教育演習 I (統合医療・アロマ)	対象学年 1	学期 前期・後期	講義方法 講義・実習	担当教員 木場 由衣登／市橋 香澄 平野 なるみ
授業の目標 補完・代替医療の一つであるアロマセラピーの基礎を学習し、施術の幅を広げると共に施術所運営にも役立てる。				
授業の概要 テキスト及びエッセンシャルオイルを使い、知識と実際の使い方を学習する。				
授業計画 第1週 アロマセラピー概説（香りを楽しむ。アロマセラピーのある暮らし） 第2週 精油のプロフィール① 第3週 精油のプロフィール② 第4週 精油のプロフィール③ 第5週 精油のプロフィール④ 第6週 アロマセラピーの歴史① 第7週 アロマセラピーの歴史② 第8週 アロマセラピーの楽しみ方 第9週 アロマセラピーの実際①（セルフケア・ホームケア） 第10週 アロマセラピーの実際②（セルフケア・ホームケア） 第11週 アロマセラピーの実際③（セルフケア・ホームケア） 第12週 アロマセラピーのメカニズムと健康学① 第13週 アロマセラピーのメカニズムと健康学② 第14週 アロマセラピーに関する法律 第15週 補完・代替医療とアロマセラピー				
テキスト これ 1 冊できちんとわかるアロマセラピー マイナビ				
教材・参考文献 最初の 1 回で必ず合格したい人のためのアロマセラピー検定 1 級・2 級 日本アロマセラピースクールエッセンシャルオイル・キャリアオイル				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする				
備考				

授業科目 教育演習Ⅱ (細胞と身体)	対象学年 1	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 平野 なるみ
授業の目標 生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。				
授業の概要 複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（神経系、内分泌系、生殖器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。				
授業計画 第1週 糖、蛋白、脂質の生化学 第2週 細胞と身体の仕組み 第3週 細胞内小器官と物質の移動 第4週 血液の生理学1 血漿とその働き 第5週 血液の生理学2 赤血球白血球血小板 第6週 血液の生理学3 凝固と血液型 第7週 循環の仕組み1 心臓 第8週 循環の仕組み2 心周期と血管 第9週 循環の仕組み3 血圧と心電図 第10週 呼吸の生理学1 肺 第11週 呼吸の生理学2 ガス交換1 第12週 呼吸の生理学3 ガス交換2 第13週 消化器の働きと仕組み1 内臓 第14週 消化器の働きと仕組み2 栄養素 第15週 消化器の働きと仕組み3 肝臓 膵臓 胆嚢の働き				
テキスト 生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満) とする				
備考				

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
教育演習Ⅲ (身体機能と構造)	2	前期・後期	講義・実習	平野 なるみ
授業の目標 生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。				
授業の概要 複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（神経系、内分泌系、生殖器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。				
授業計画 第1週 物質代謝とエネルギー 第2週 基礎代謝と仕組み 第3週 体温調節と仕組み 第4週 腎臓の働き 1 構造と仕組み 第5週 腎臓の働き 2 ろ過、再吸収、蓄尿排尿の機序 第6週 ホルモン総論 第7週 ホルモン各論 1 視床下部、下垂体と関連疾患 第8週 ホルモン各論 2 松果体 甲状腺 上皮小体 膵臓のホルモンと関連疾患 第9週 ホルモン各論 3 副腎皮質 副腎髄質 と生殖器（男性） 第10週 ホルモン各論 4 生殖器（女性 妊娠分娩） 第11週 体液と酸塩基平衡 第12週 神経の構造と仕組み（総論） 第13週 神経各論 1 自律神経と反射 第14週 神経各論 2 体性神経（脳神経を中心に） 第15週 神経各論 3 中枢神経系 1 大脳				
テキスト 生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
教材・参考文献 ○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版				
成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行ない 100点満点の 60点以上を合格とする。 秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする				
備考				

授業科目 教育演習Ⅲ (身体機能と構造)	対象学年 2	学期 前期・ 後期	講義方法 講義 ・実習	担当教員 平野 なるみ
<p>授業の目標</p> <p>生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（神経系、内分泌系、生殖器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1週 中枢神経 2 大脳基底核 小脳 間脳 脳幹</p> <p>第2週 中枢神経 3 反射（脊髄 脳幹）と経路</p> <p>第3週 神経 まとめ 第4週 骨格筋</p> <p>第5週 筋収縮とエネルギー</p> <p>第6週 平滑筋 筋電図</p> <p>第7週 感覚総論</p> <p>第8週 感覚各論 1 内臓感覚 体性感覚</p> <p>第9週 感覚各論 2 特殊感覚 1</p> <p>第10週 感覚各論 3 特殊感覚 2</p> <p>第11週 まとめ 1 細胞から呼吸器</p> <p>第12週 まとめ 2 消化と吸収から腎臓</p> <p>第13週 まとめ 3 内分泌から酸塩基平衡</p> <p>第14週 まとめ 4 神経全般</p> <p>第15週 まとめ 5 筋肉から感覚</p>				
<p>テキスト</p> <p>生理学 東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p>				
<p>教材・参考文献</p> <p>○×問題でマスター 生理学 医歯薬出版</p>				
<p>成績評価の方法</p> <p>定期試験の成績で評価する。</p> <p>なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。</p> <p>秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする</p>				
<p>備考</p>				